「さぬき市男女共同参画プラン」策定に向けての 市民アンケート調査

- 報告書 -

平成24年10月香川県 さぬき市

~ 目 次 ~

I	調査の概要	1
П	回答者の属性	3
	1. 性別構成	3
	2. 年齢別構成	3
	3. 職業別構成	4
	4. 未既婚	5
	5. 配偶者・パートナーの職業	6
	6. 子どもの状況について	7
	7. 同居している家族構成	8
Ш	調査結果	9
	【1】男女平等について	9
	1. 男女の地位の平等意識	9
	2. 男女が平等になるため重要だと思うこと	13
	3. 男女共同参画の視点からみたさぬき市の現状	15
	【2】家庭生活について	22
	1. 結婚や家庭のことについて	22
	2. 家事の分担について	26
	(1)望ましい家事の分担	
	(2)実際の家事の分担	
	3. 男性が積極的に参加するため必要と思うこと	34
	4. 子どもの育て方について	
	5. 子どもに求める育ち方について	
	6. 生涯を健康に過ごすために必要と思うこと	
	7. 自分を介護してほしい人	
	8. 高齢者の介護のあり方について	
	【3】職業について	52
	1. 就労理由	
	2. 仕事の内容について	56
	(1) 仕事の内容や待遇面の男女差について	56
	(2)差別の内容	58
	3. 未就労理由	
	4. 就労意向	
	5. 女性が職業をもつことについて	
	6. 女性が働き続けたり再就職のため必要と思うこと	
	7. 様々な職業分野で女性が増えることについて	
	8. 今後女性がもっと増える方がよいと思う役職等	72

【4】人権について	75
1. 女性の人権が尊重されていないと感じる場面	75
2. 子どもを産むことについて	79
3. 暴力等に関する認知内容	81
4. DVについて	84
(1) DVの経験	84
(2)DVの相談経験	86
(3) 相談しなかった理由	88
5. 暴力等をなくすために必要と思うこと	89
【5】地域活動について	92
1. 地域活動への参加状況	92
2. 地域活動に参加しない理由	98
【6】市政について	100
1. さぬき市が今後力を入れるべきこと	100
【7】男女共同参画について	104
1. 自由記述回答集約結果	104

Ι 調査の概要

【調査の目的】

「さぬき市男女共同参画プラン」の改定にあたり、市民の男女共同参画に関する意識や 実態、問題点や意見等を調査し、施策を検討する上での基礎資料とすることを目的に実施 した。

【調査対象】

18歳以上の市民(住民基本台帳による無作為抽出/平成24年6月1日現在)

【調査方法】

郵送配布、郵送回収

【調査時期】

平成24年(2012年)6月~7月

【回収結果】

発送数 ------2,000 件 有効回収数 -----720 件 有効回収率 -----36.0%

注:有効回収数とは、回収票のうち無効票(無記入票)を除外した「集計対象数」を示す。

【聴取項目(大項目)】

- ◇回答者属性
- ◇男女平等について
- ◇家庭生活について
- ◇職業について
- ◇人権について
- ◇地域活動について
- ◇市政について

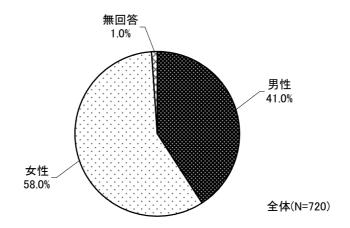
【報告書の見方について】

- (1)集計は小数点以下第2位を四捨五入している。従って回答比率の合計は必ずしも 100%にならない場合がある。
- (2) 2つ以上の回答を可能とした(複数回答)質問の場合、その回答比率の合計は100%を超える場合がある。
- (3)数表、図表、文中に示すNは、比率算出上の基数(標本数)である。全標本数を示す「全体」を「N」、該当数^{*}を「n」で表記している。
- (4) 図表中における年齢別などのクロス集計結果については、該当する属性等の設問に対する無回答者(例えば、年齢別でクロス集計する場合における年齢の無回答者)を除いて表記しているため、属性ごとの基数の合計と全体の基数は同じにならない場合がある。
- (5)図表中においては見やすさを考慮し、回答割合が極端に少ない数値(例:0.0%、0.1% など)は、図と干渉して見えにくい場合などに省略している場合がある。また、複数回答の図表中においては、見やすさを考慮し、回答割合の高い順に並べ替えて表記している場合がある。
- (6) 設問によっては、平成15年度及び20年度に実施された、同調査との比較を行っている(時系列推移)。その際、図表等の表記は平成15年度調査を「前々回(H15)」、 平成20年度調査を「前回(H20)」と略記している。
- (7) この他、個別に参照事項がある場合は、本報告書の該当箇所に適宜記載した。
 - ※(例)問Aで1と回答した人のみが、問Bを答える場合の問Bの基数、あるいはクロス集計における各属性(「男性」や「20 歳代」・・・)など、限定された回答者数

Ⅱ回答者の属性

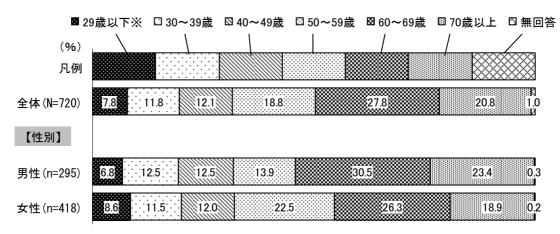
1. 性別構成

回答者の性別構成は、「男性」が 41.0%、「女性」が 58.0% と、およそ4:6 に近い割合 となっている。



2. 年齡別構成

年齢別構成は、「 $60\sim69$ 歳」が 27.8% と、およそ 4 分の 1 以上の割合を占めて最も高く、次いで「70 歳以上」(20.8%)、「 $50\sim59$ 歳」(18.8%) の順で、『50 歳以上(合計)』で全体の 7 割近く(67.4%)を占めている。

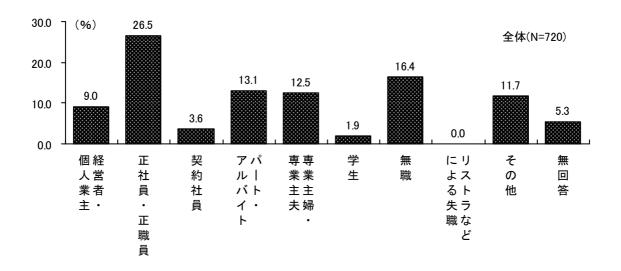


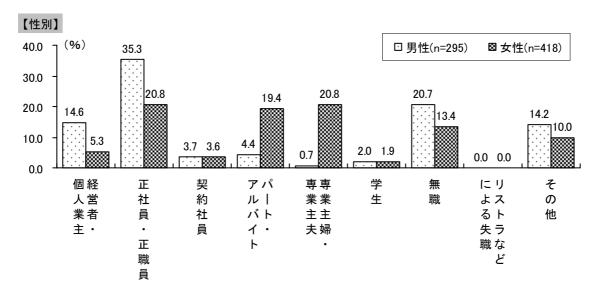
※「18~19歳」(全体 1.7%)及び「20~29歳」(全体 6.1%)の合計値

3. 職業別構成

職業別構成については、「正社員・正職員」の割合が26.5%と最も高く、次いで「無職」(16.4%)、「パート・アルバイト」(13.1%)、「専業主婦・専業主夫」(12.5%)の順となっている。

性別でみると、男性は女性に比べ「正社員・正職員」「経営者・個人業主」などの割合が高く、女性は「パート・アルバイト」「専業主婦・専業主夫」などが男性を上回っている。





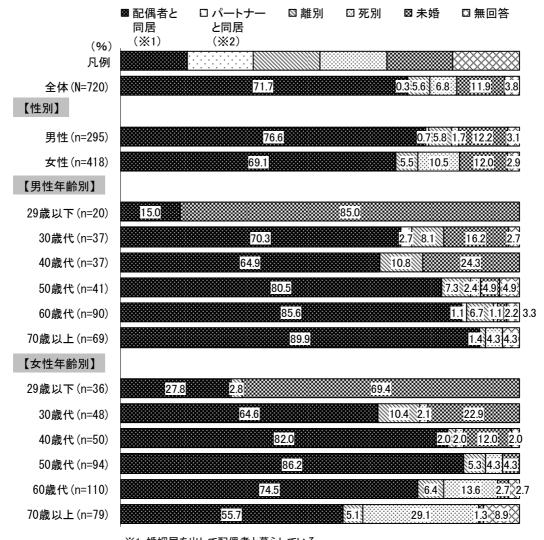
注:図中「無回答」は省略している

4. 未既婚

未既婚については、「婚姻届を出して配偶者と暮らしている」割合が7割以上(71.7%)を占め最も高く、以下「未婚」(11.9%)が続く。

性別では、男性で「婚姻届を出して配偶者と暮らしている」がやや高く、女性は「死別」 が男性を上回っている。

年齢別では、男女ともに 29 歳以下は「未婚」が大半を占めるが、男性は年齢が上がるほど「婚姻届を出して配偶者と暮らしている」が増える傾向にあり、女性は 60 歳以上で「死別」の割合が増える傾向にある。



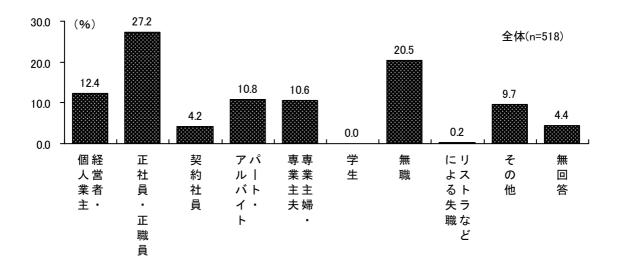
※1 婚姻届を出して配偶者と暮らしている

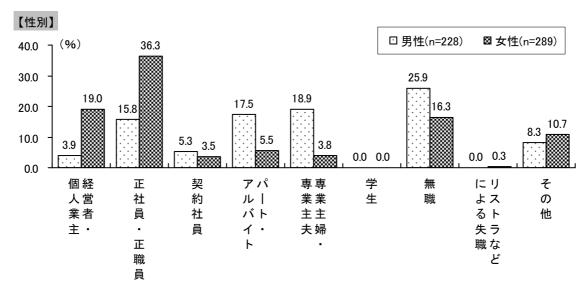
※2 婚姻届は出していないがパートナーと暮らしている

5. 配偶者・パートナーの職業

配偶者・パートナーの職業については、「正社員・正職員」の割合が27.2%と最も高く、次いで「無職」(20.5%)、「経営者・個人業主」(12.4%)、「パート・アルバイト」(10.8%)、「専業主婦・専業主夫」(10.6%)の順となっている。

性別でみると、回答者本人が男性の場合の配偶者(妻)・パートナーの職業は「無職」「専業主婦・専業主夫」「パート・アルバイト」などの割合が高くなっており、回答者本人が女性の場合の配偶者(夫)・パートナーの職業は「正社員・正職員」「経営者・個人業主」の割合が高くなっている。



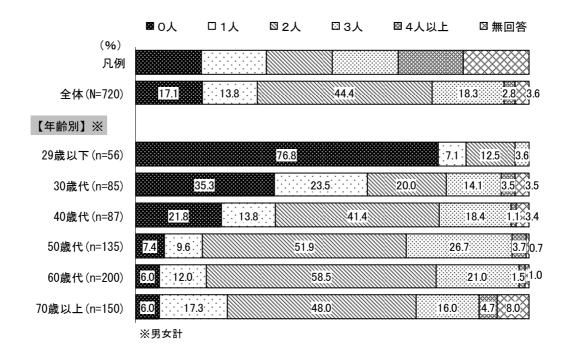


注:図中「無回答」は省略している

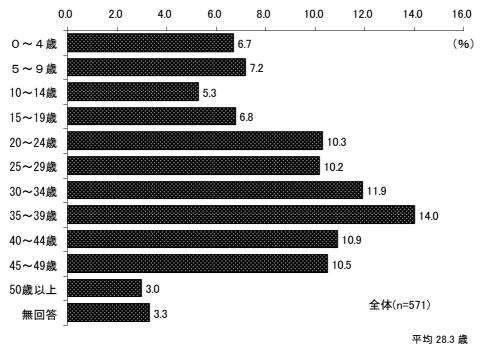
6. 子どもの状況について

子どもの数については、「2人」の割合が44.4%と最も高く、次いで「3人」(18.3%)、「1人」(13.8%)と続き、「0人」(子どもはいない)は17.1%みられた。

30 歳代では「0人」が3割以上を占めるが、「1人」「2人」の割合も高く、40 歳以上になると、各年齢層とも「2人」の割合が最も高い。



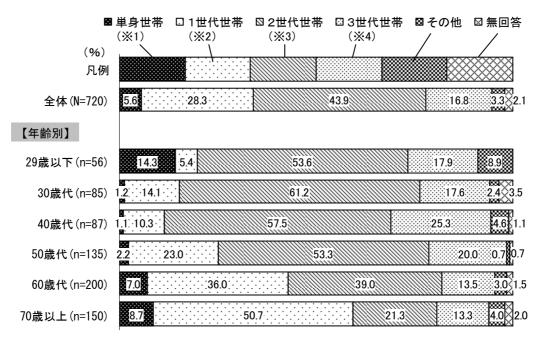
末子の年齢については、「35~39 歳」の割合が 14.0%と最も高く、次いで「30~34 歳」 (11.9%) と続き、平均は 28.3 歳となっている。



7. 同居している家族構成

同居している家族構成については、「2世代世帯(親と子)」の割合が43.9%と最も高く、次いで「1世代世帯(夫婦だけ)」(28.3%)、「3世代世帯(親と子と孫)」(16.8%)の順となっている。

年齢が上がるほど、「1世代世帯(夫婦だけ)」の割合も増える傾向にあり、40歳代では他の年齢層に比べ「3世代世帯(親と子と孫)」の割合も高い。



- ※1 ひとり暮らし
- ※2 夫婦だけ
- ※3 親と子
- ※4 親と子と孫

Ⅲ 調査結果

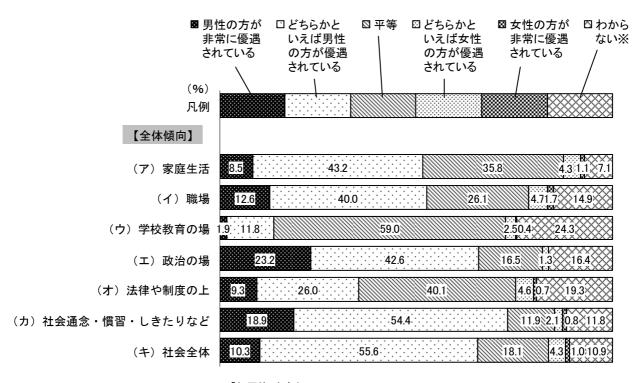
【1】男女平等について

1. 男女の地位の平等意識

問1. あなたは、(ア)~(カ)の各分野、または(キ)の社会全体について男女の地位は平等になっていると思いますか。それぞれ1~6の中から1つずつ選んで〇印をつけてください。

全体では、すべての分野において、『男性優遇^注』の割合が『女性優遇^注』の割合を上回っている。特に、「(カ) 社会通念・慣習・しきたりなど」(73.3%)、「(キ) 社会全体」(65.9%)、「(エ) 政治の場」(65.8%)、「(イ) 職場」(52.6%) で高く、特に「(エ) 政治の場」や「(カ) 社会通念・慣習・しきたりなど」では「男性の方が非常に優遇されている」割合が他の項目を大きく上回っている。

一方、「平等になっている」割合が高い項目としては、「(ウ) 学校教育の場」(59.0%)、「(オ) 法律や制度の上」(40.1%) などがあげられる。



※「無回答」を含む

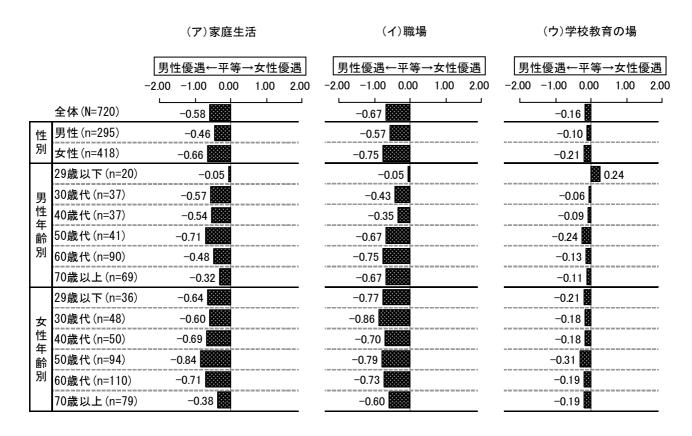
注:「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせて『男性優遇』、「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせて『女性優遇』とする。

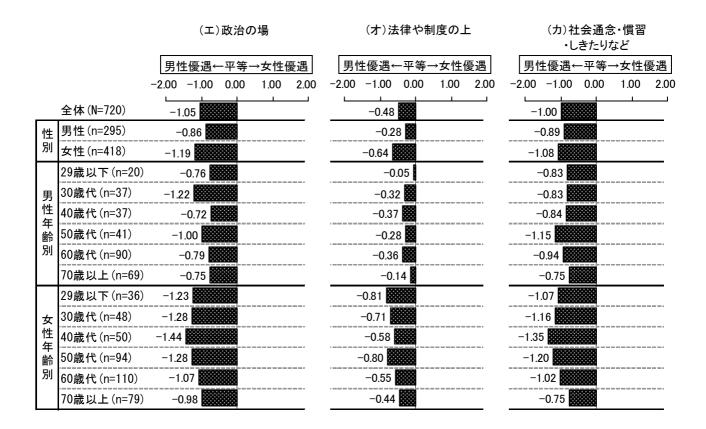
加重平均値^注による属性別傾向をみると、性別では、すべての分野において女性で『男性優遇』の意識が高くなっている。

性・年齢別では、男性の 29 歳以下の年齢層において「(ア) 家庭生活」「(イ) 職場」「(ウ) 学校教育の場」などの分野で『平等』あるいは『女性優遇』意識が他の年齢層に比べ高くなっている。一方、女性の 30 歳代では、特に「(イ) 職場」、50 歳代では「(ア) 家庭生活」で『男性優遇』意識が高く、また 30~50 歳代の年齢層では「(エ) 政治の場」「(カ) 社会通念・慣習・しきたりなど」「(キ) 社会全体」などの分野において『男性優遇』意識が高い。

◆注:加重平均値による属性別傾向◆

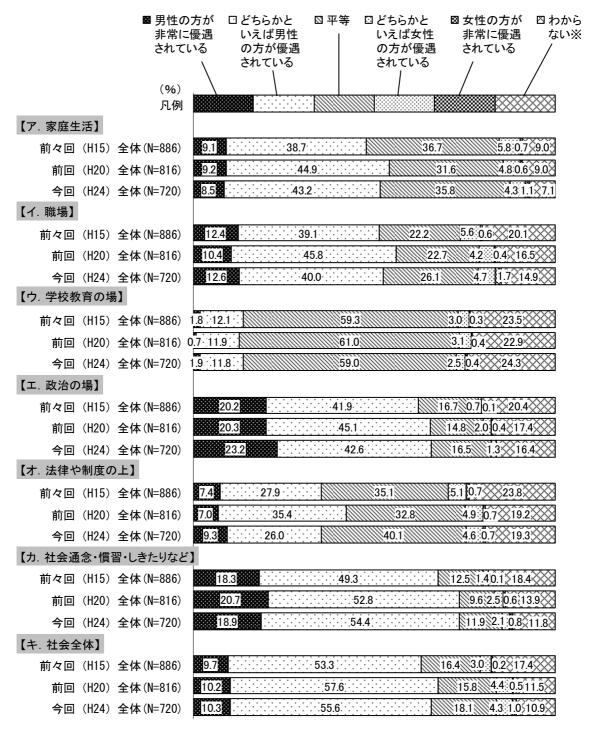
加重平均値とは、「男性の方が非常に優遇されている」に-2点、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」に-1点、「平等」に0点、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」に+1点、「女性の方が非常に優遇されている」に+2点の係数を、それぞれの回答件数に乗じ、加重平均して算出した値で、-2点に近いほど男性優遇、+2点に近いほど女性優遇、0点に近いほど平等を示す指標である。また、この数値はあくまでも「統計上の指標」であり、マイナス、プラスによって男女の優劣を判定するものではない。





(キ)社会全体

		男性優遇←	-平等-	→女性優	憂遇
		-2.00 -1.00	0.00	1.00	2.00
	全体(N=720)	-0.78	****		
性	男性(n=295)	-0.63			
別	女性(n=418)	-0.90			
	29歳以下(n=20)	-0.2	20		
男	30歳代(n=37)	-0.56			
性年	40歳代(n=37)	-0.46	***		
齢	50歳代(n=41)	-0.80	****		
別	60歳代(n=90)	-0.79			
	70歳以上(n=69)	-0.59	***		
	29歳以下(n=36)	-0.85			
女	30歳代 (n=48)	-0.98			
性年	40歳代(n=50)	-1.02	***		
齢	50歳代(n=94)	-1.08			
別	60歳代(n=110)	-0.84			
	70歳以上(n=79)	-0.59	****		



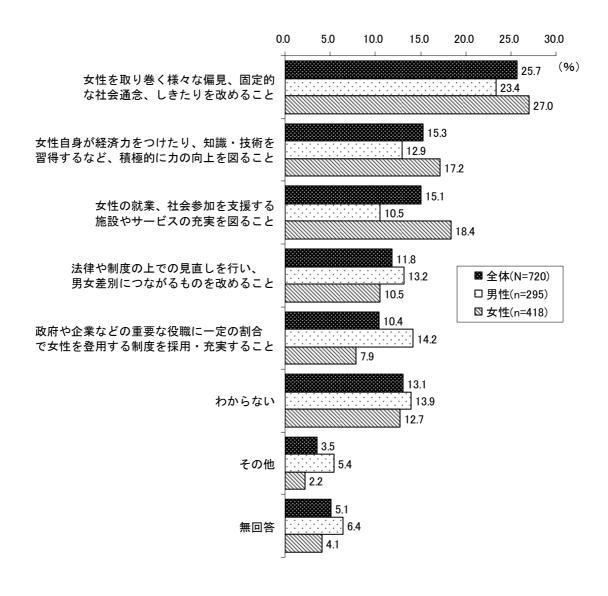
※「無回答」を含む

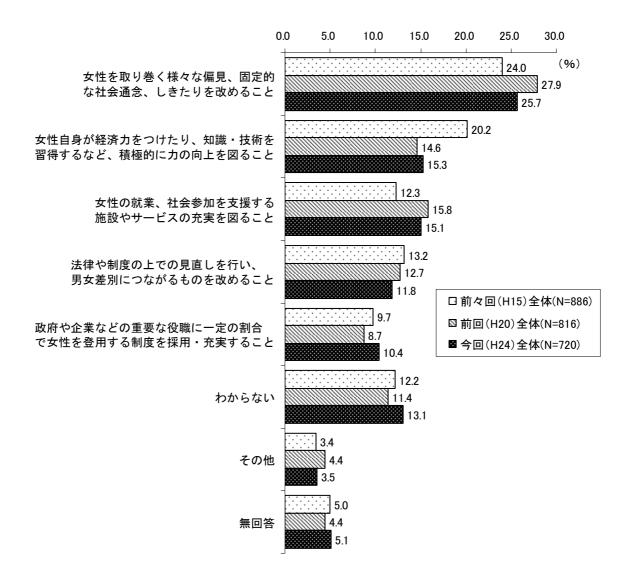
2. 男女が平等になるため重要だと思うこと

問2. あなたは、社会全体で男女がもっと平等になるために最も重要だと思うことは何ですか。次の中から1つ選んで〇印をつけてください。

男女が平等になるため重要だと思うことについては、「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、しきたりを改めること」の割合が25.7%と最も高く、次いで「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること」(15.3%)、「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」(15.1%)、「法律や制度の上での見直しを行い、男女差別につながるものを改めること」(11.8%)の順となっている。

性別では、男性は女性に比べ「政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること」の割合が高く、女性は特に「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること」「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」などで男性を上回っている。

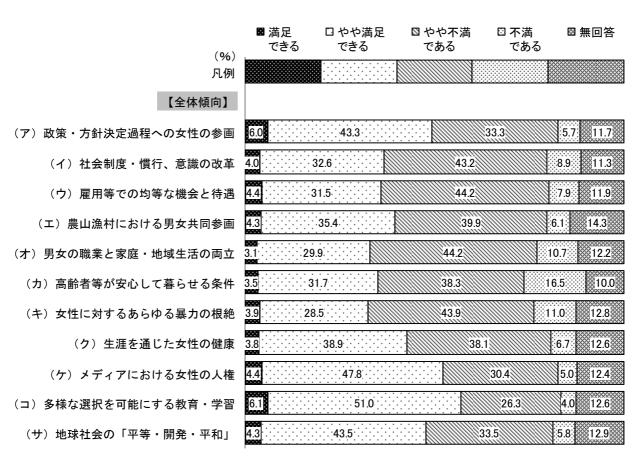




3. 男女共同参画の視点からみたさぬき市の現状

問3. 男女共同参画という視点から、あなたは(ア)~(サ)のさぬき市における現状についてどのようにお感じですか。それぞれ1~4の中から、1つずつ選んで〇印をつけてください。

男女共同参画の視点からみたさぬき市の現状については、「満足できる」と「やや満足できる」を合計した『満足』の割合が高い順に、「(コ)多様な選択を可能にする教育・学習」 (57.1%)、「(ケ) メディアにおける女性の人権」(52.2%)、「(ア) 政策・方針決定過程への女性の参画」(49.3%) などがあげられる。一方、「やや不満である」と「不満である」を合計した『不満』では、「(オ) 男女の職業と家庭・地域生活の両立」「(キ) 女性に対するあらゆる暴力の根絶」(6.54.9%)、「(カ) 高齢者等が安心して暮らせる条件」(54.8%)などがあげられる。



◆項目の注釈◆

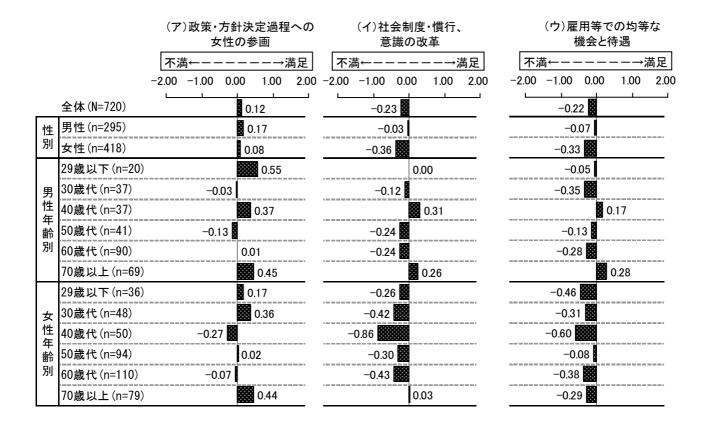
- ア: 各種委員・公務員・管理職などへの男女の参加など
- イ:「男だから」「女だから」という固定概念の改善など
- ウ:採用、職場での処遇など
- エ: 経営等への女性の参加など
- オ: 育児環境、労働時間、地域活動への参加など
- カ:介護保険制度、高齢者の社会参画など
- キ:暴力、性犯罪等への対策など
- ク: 思春期や更年期の健康問題への対応など
- ケ:広報・出版物等における男女のイメージなど
- コ: 学校での教育、生涯学習の機会など
- サ:国連の諸活動への協力、途上国への支援など

加重平均値^注による属性別傾向をみると、性別では、男性に比べ女性で「(イ) 社会制度・慣行、意識の改革」「(ウ) 雇用等での均等な機会と待遇」「(キ) 女性に対するあらゆる暴力の根絶などで『不満』意識が高い。

性・年齢別では、女性の 40 歳代で『不満』意識が高い項目が目立っており、特に「(イ) 社会制度・慣行、意識の改革」「(ウ) 雇用等での均等な機会と待遇」「(オ) 男女の職業と 家庭・地域生活の両立」「(カ) 高齢者等が安心して暮らせる条件」などがあげられる。「(ケ) メディアにおける女性の人権」「(コ) 多様な選択を可能にする教育・学習」については、 各年齢層ともに『満足』意識が高くなっているが、女性の 40 歳代では相対的に低い。

◆注:加重平均値による属性別傾向◆

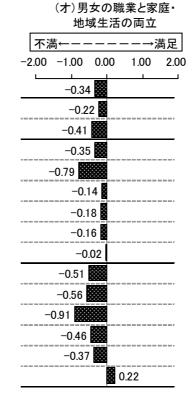
加重平均値とは、「不満である」に-2点、「やや不満である」に-1点、「やや満足できる」に+1点、「満足できる」に+2点の係数を、それぞれの回答件数に乗じ、加重平均して算出した値で、-2点に近いほど不満、+2点に近いほど満足を示す指標である。

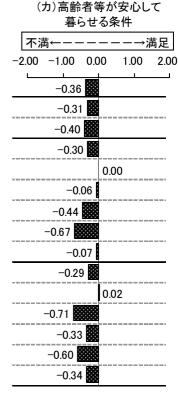


(エ)農山漁村における 男女共同参画 -2.00 -1.00 0.00 1.00 2.00 全体(N=720) -0.09 男性(n=295) -0.10 性 別 女性(n=418) -0.07 29歳以下(n=20) -0.05 30歳代(n=37) -0.03 性 40歳代(n=37) 0.03 年 50歳代(n=41) -0.49 60歳代(n=90) -0.10 70歳以上(n=69) -0.02 29歳以下(n=36) 0.20 30歳代(n=48) 0.24 性 -0.36 40歳代(n=50) 年 50歳代(n=94) -0.28 齢 別 -0.17 60歳代(n=110)

0.21

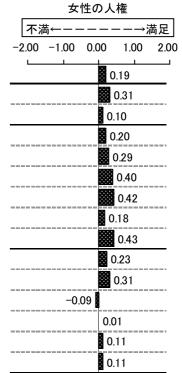
70歳以上(n=79)



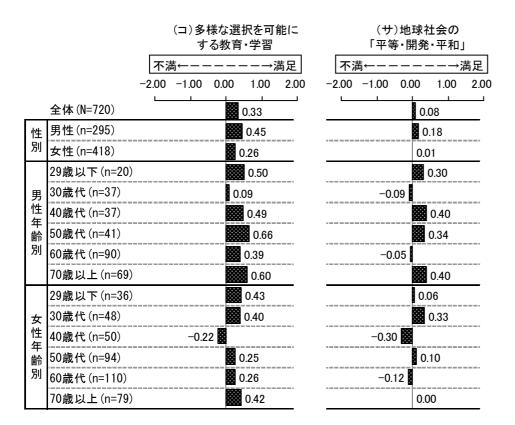


	(キ)女性に対するあらゆる					
		暴力の根絶				
		不満←−−−−→満足				
		-2.00 -1.00 0.00 1.00 2.00				
	全体(N=720)	-0.34				
性	男性(n=295)	-0.16				
別	女性(n=418)	-0.47				
	29歳以下(n=20)	-0.30				
男	30歳代(n=37)	0.18				
性年齢	40歳代(n=37)	0.06				
齢	50歳代(n=41)	-0.16				
別	60歳代(n=90)	−0.28 28				
	70歳以上(n=69)	-0.23				
	29歳以下(n=36)	-0.69				
女	30歳代(n=48)	− 0.49				
性年	40歳代(n=50)	−0.50 888				
齢	50歳代(n=94)	−0.40 **				
別	60歳代(n=110)	-0.45				
	70歳以上(n=79)	−0.40				

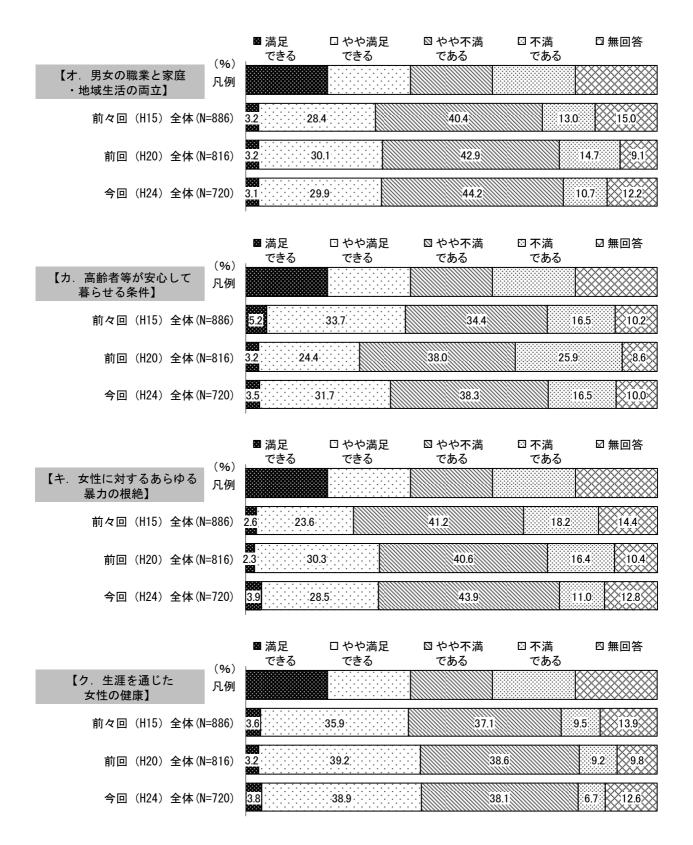
(ク)生涯を通じた女性の健康							
不満←−−−→満足							
-2.00 -1.00 0.00 1.00 2.00							
-0.06							
0.18							
-0.23							
0.10							
0.00							
0.20							
0.10							
0.22							
0.27							
-0.29							
-0.20							
-0.44							
-0.33							
-0.21							
0.09							
-							



(ケ)メディアにおける



(%)	■ 満足 _, できる	ロ やや満足 できる	□ やや不満 である	□ 不満 である	🛚 無回答
【ア. 政策・方針決定過程 への女性の参画】					
前々回(H15)全体(N=886)	6.1	35.6	36.5		7.8 14.0
前回(H20)全体(N=816)	4.4	44.1		35.3	6.1 10.0
今回(H24)全体(N=720)	6.0	43.3		33.3	5.7 11.7
(%)	■ 満足 できる	□ やや満足 できる	図 やや不満 である	□ 不満 である	□無回答
【イ. 社会制度・慣行、 _{凡例} 意識の改革】					
前々回(H15)全体(N=886)	3.5	27.8	45.5		9.9 13.3
前回(H20)全体(N=816)	3.3	31.7	44.7		11.2 9.1
今回(H24)全体(N=720)	4.0	32.6	43.2		8.9 11.3
(96)	■ 満足 できる	□ やや満足 できる	□ やや不満 である	☑ 不満 である	☑ 無回答
(%) 【ウ. 雇用等での均等な 機会と待遇】					□無回答
【ウ. 雇用等での均等な _{同 例}	できる			である	1.6 14.6
【ウ. 雇用等での均等な 凡例 機会と待遇】	できる	できる	である	である	
【ウ. 雇用等での均等な 機会と待遇】 前々回 (H15) 全体(N=886)	できる 4.0 2.8	できる	である 42.1	である	1.6 14.6
【ウ. 雇用等での均等な機会と待遇】 前々回 (H15)全体(N=886) 前回 (H20)全体(N=816) 今回 (H24)全体(N=720)	できる 4.0 4.0 2.8	できる 27.7 33.3	である 42.1 43.9	である	1.6 14.6
【ウ. 雇用等での均等な機会と待遇】 前々回 (H15)全体(N=886) 前回 (H20)全体(N=816)	できる 4.0 2.8 4.4 4.4	できる 27.7 33.3 31.5	である 42.1 43.9 44.2	である 1 2 不満	1.6 14.6 10.4 9.6 7.9 11.9
【ウ. 雇用等での均等な機会と待遇】 前々回 (H15) 全体 (N=886) 前回 (H20) 全体 (N=816) 今回 (H24) 全体 (N=720)	できる 4.0 2.8 4.4 4.4	できる 27.7 33.3 31.5	である 42.1 43.9 44.2	である 1 2 不満 である	1.6 14.6 10.4 9.6 7.9 11.9
【ウ. 雇用等での均等な機会と待遇】 前々回 (H15) 全体 (N=886) 前回 (H20) 全体 (N=816) 今回 (H24) 全体 (N=720) 【エ. 農山漁村における男女共同参画】	できる 4.0 4.0 2.8 4.4 ぶ 満足できる	できる 27.7 33.3 31.5	である 42.1 43.9 44.2 〇 やや不満 である	である 1 2 不満 である	1.6 14.6 14.6 10.4 9.6 11.9

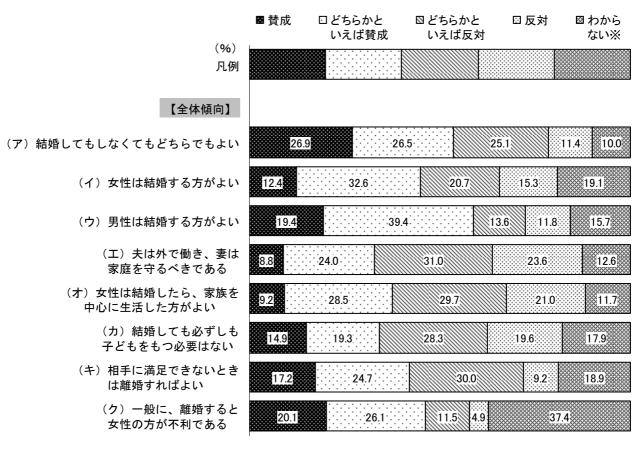


(0	■ 満足 、、 できる	□ やや満足 できる		☑ 不満 である	🗅 無回答
(% 【ケ. メディアにおける 凡f 女性の人権】	000000000000000000000000000000000000000				
前々回(H15)全体(N=886	5.1	41.8	3	1.8	6.5 14.8
前回(H20)全体(N=816	6) 4.0 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	46.9		32.5	6.1 10.4
今回(H24)全体(N=720	0) 4.4	47.8		30.4	5.0 12.4
(%	図 満足 ない」 できる	□ やや満足 できる	□ やや不満 である	□ 不満 である	☑ 無回答
【コ. 多様な選択を可能に 凡 する教育・学習】	200000000000000000000000000000000000000				
前々回(H15)全体(N=886	6) 8.4	45.4		25.8	6.0 14.4
前回(H20)全体(N=816	6.0	49.9		28.6	5.8 9.8
今回(H24)全体(N=720	0) 6.1	51.0		26.3	4.0 12.6
(%	■ 満足 _{2、} できる	ロ やや満足 できる	□ やや不満である	☑ 不満 である	☑ 無回答
【サ. 地球社会の「平等・ 開発・平和」】	000000000000000000000000000000000000000				
前々回(H15)全体(N=886	5.6	36.8	35.0) !	3.4 14.2
前回(H20)全体(N=816	4.4	39.8	3	6.6	8.6 10.5
会同 (H24) 全休(N=720)) 43			33.5	5 9 12 9

1. 結婚や家庭のことについて

問4. あなたは、(ア)~(ク)について、どのようにお考えですか。それぞれ1~5の中から1つずつ 選んで〇印をつけてください。

結婚や家庭のことについては、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合計した『賛成意識』の割合が高い順に、 $^{\pm}$ 「(ウ) 男性は結婚する方がよい」(58.8%)、「(ア) 結婚してもしなくてもどちらでもよい」(53.4%)、「(ク) 一般に、離婚すると女性の方が不利である」(46.2%)などがあげられる。特に「(ア) 結婚してもしなくてもどちらでもよい」は「賛成」の回答割合が最も高い。一方、「どちらかといえば反対」と「反対」を合計した『反対意識』では、「(エ) 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」(54.6%)、「(オ) 女性は結婚したら、家族を中心に生活した方がよい」(50.7%)、「(カ) 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」(47.9%)などがあげられる。



※「無回答」を含む

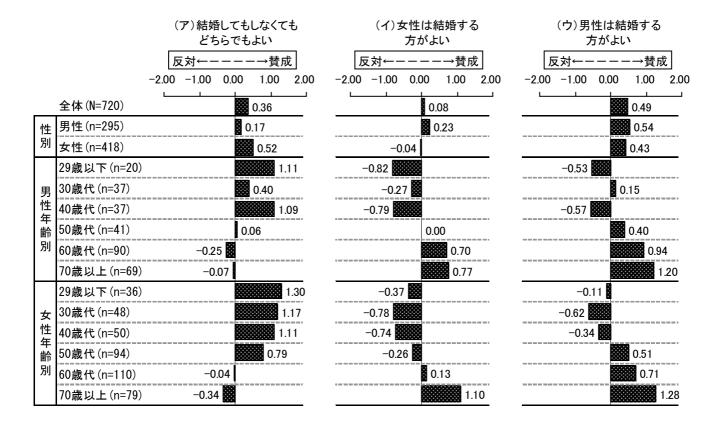
- ◆注:図中の文章は略記している。略記前の元の文章は以下のとおりである。◆
 - (ア)結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい
 - (イ)女性の幸福は結婚にあるのだから、女性は結婚する方がよい
 - (ウ)男性は結婚し、家庭を持って一人前といえるので、男性は結婚する方がよい
 - (工)夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである。
 - (オ)女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい
 - (カ)結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない
 - (キ)結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい
 - (ク)一般に、今の社会では離婚すると女性の方が不利である

加重平均値^注による属性別傾向をみると、性別では、女性は男性に比べ「(ア) 結婚してもしなくてもどちらでもよい」や「(ク) 一般に、離婚すると女性の方が不利である」で『賛成意識』が高く、「(工) 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」では反対意識が高い。

性年齢別では、男女ともに若い年齢層ほど『賛成意識』が高く、年齢が上がるほど『反対意識』が高まる項目として、「(ア)結婚してもしなくてもどちらでもよい」「(カ)結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」があげられる。逆に若い年齢層ほど『反対意識』が高く、年齢が上がるほど『賛成意識』が高い項目として「(イ)女性は結婚する方がよい」「(ウ)男性は結婚する方がよい」などがあげられ、年齢による意識差が目立っている。

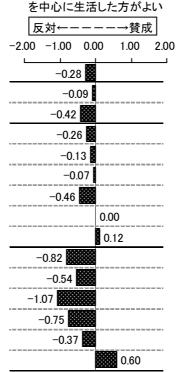
◆注:加重平均値による属性別傾向◆

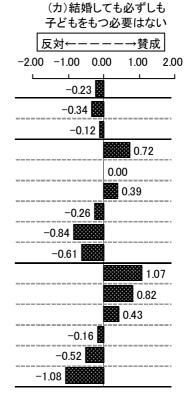
加重平均値とは、「反対」に-2点、「どちらかといえば反対」に-1点、「どちらかといえば賛成」に+1点、「賛成」に+2点の係数を、それぞれの回答件数に乗じ、加重平均して算出した値で、-2点に近いほど反対、+2点に近いほど賛成を示す指標である。

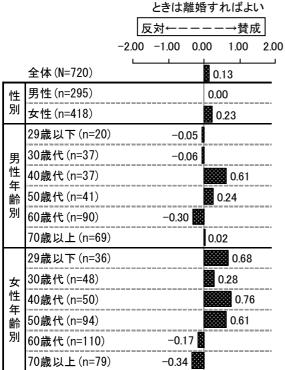


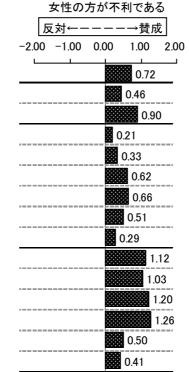
(工)夫は外で働き、妻は (オ)女性は結婚したら、家族 家庭を守るべきである 反対←−−−→賛成 -2.00 -1.00 0.00 1.00 2.00 全体(N=720) -0.42 男性(n=295) -0.18 別 女性(n=418) -0.58 29歳以下(n=20) -0.78 30歳代(n=37) -0.28 性 40歳代(n=37) -0.60 年 50歳代(n=41) -1.00 別 60歳代(n=90) 0.10 70歳以上(n=69) 0.41 29歳以下(n=36) -0.97 30歳代(n=48) -0.82 性 40歳代 (n=50) -1.09 年 50歳代 (n=94) -0.79 齢 別 -0.52 60歳代(n=110) 0.32 70歳以上(n=79)

(キ)相手に満足できない

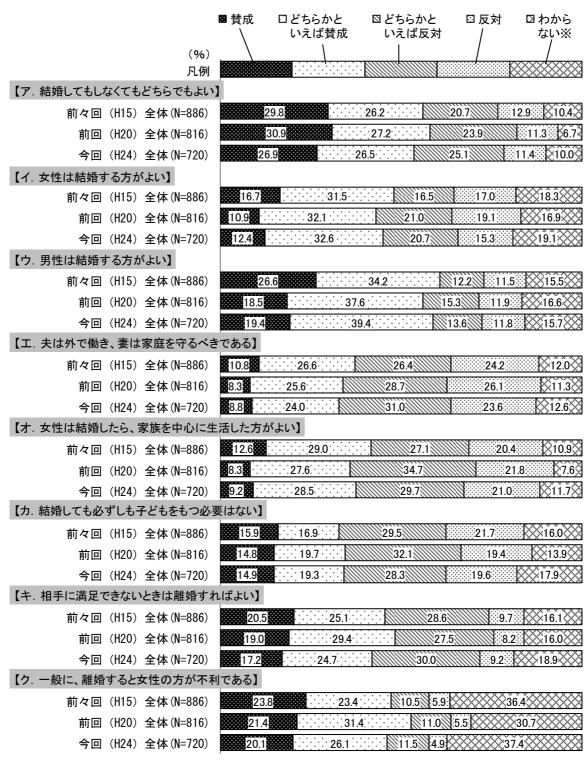








(ク)一般に、離婚すると



※「無回答」を含む

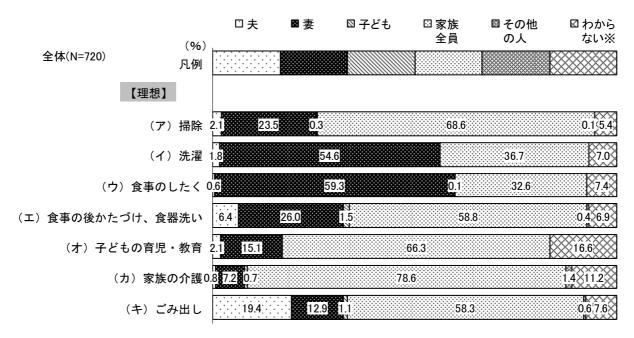
- ◆注:図中の文章は略記している。略記前のもとの文章は以下のとおりである。◆
- (ア)結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい
- (イ)女性の幸福は結婚にあるのだから、女性は結婚する方がよい
- (ウ)男性は結婚し、家庭を持って一人前といえるので、男性は結婚する方がよい
- (工)夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである。
- (オ)女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい
- (カ)結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない
- (キ)結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい
- (ク)一般に、今の社会では離婚すると女性の方が不利である

2. 家事の分担について

(1)望ましい家事の分担

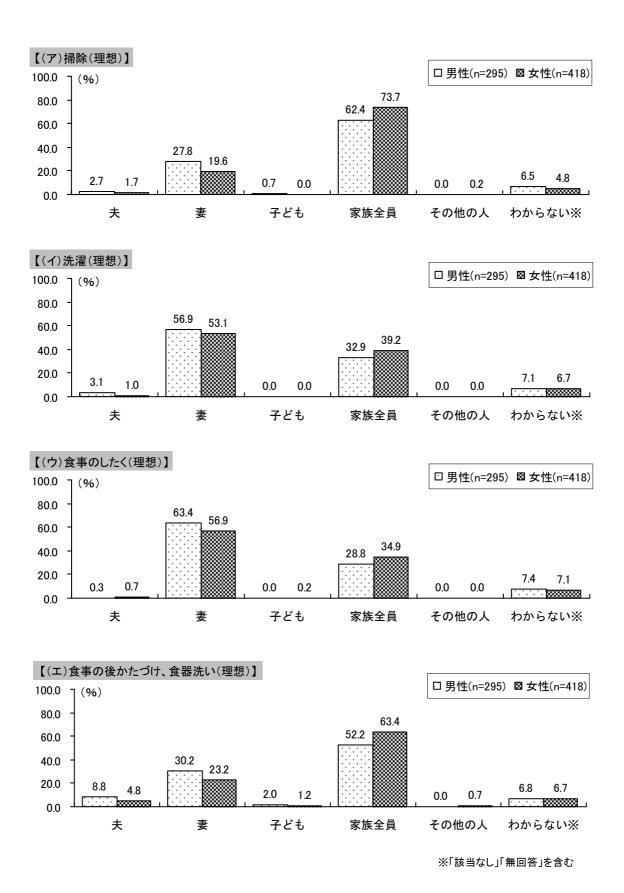
問5. (ア)~(キ)の家事は主にだれが分担するのが望ましいと思いますか。それぞれ1~7の中から1つずつ選んで〇印をつけてください。

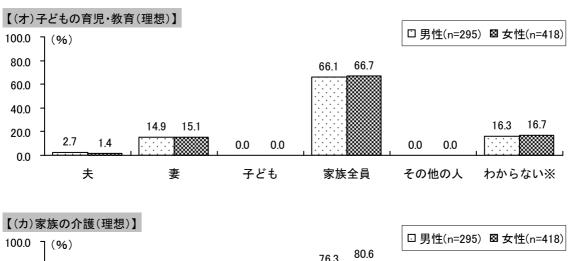
望ましい家事の分担について、「夫」の割合が「妻」を上回っているものとして「(キ) ごみ出し」(19.4%) があげられる。また「妻」の割合が高いものとしては「(イ) 洗濯」 (54.6%)、「(ウ) 食事のしたく」(59.3%) があげられるが、この他では「家族全員」で 分担することが望ましいとする割合が高い項目が目立ち、特に「(カ)家族の介護」(78.6%)、「(ア) 掃除」(68.6%)、「(オ) 子どもの育児・教育」(66.3%) などがあげられる。

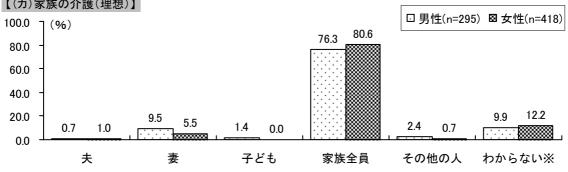


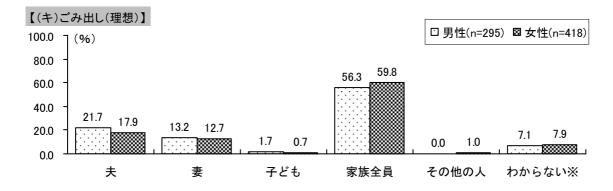
※「該当なし」「無回答」を含む

性別では、「(ア)掃除」や「(エ)食事の後かたづけ、食器洗い」について、「家族全員」で分担することが望ましいとする女性の割合が、男性を大きく上回っている。

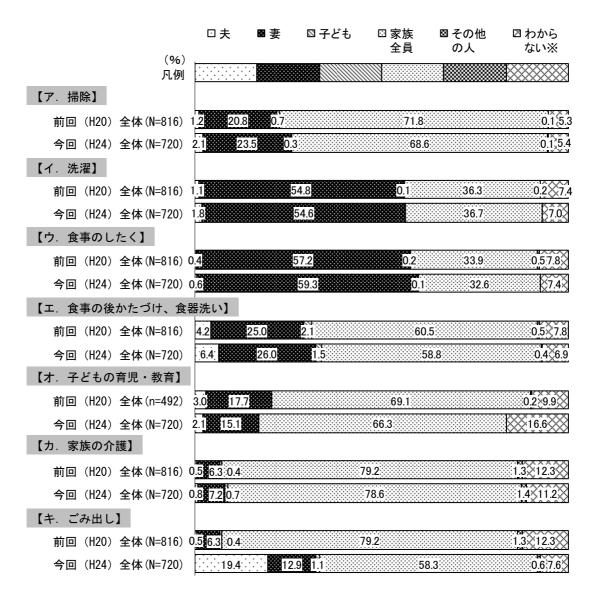








※「該当なし」「無回答」を含む



※「該当無し」「無回答」を含む

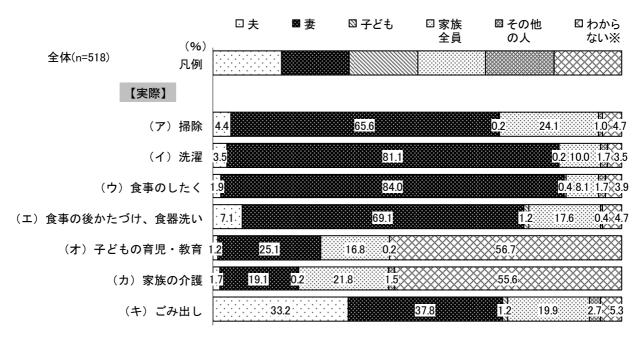
注 1:平成 15 年は該当設問無し

注2:平成20年では「オ」の該当数ベースが異なる

(2)実際の家事の分担

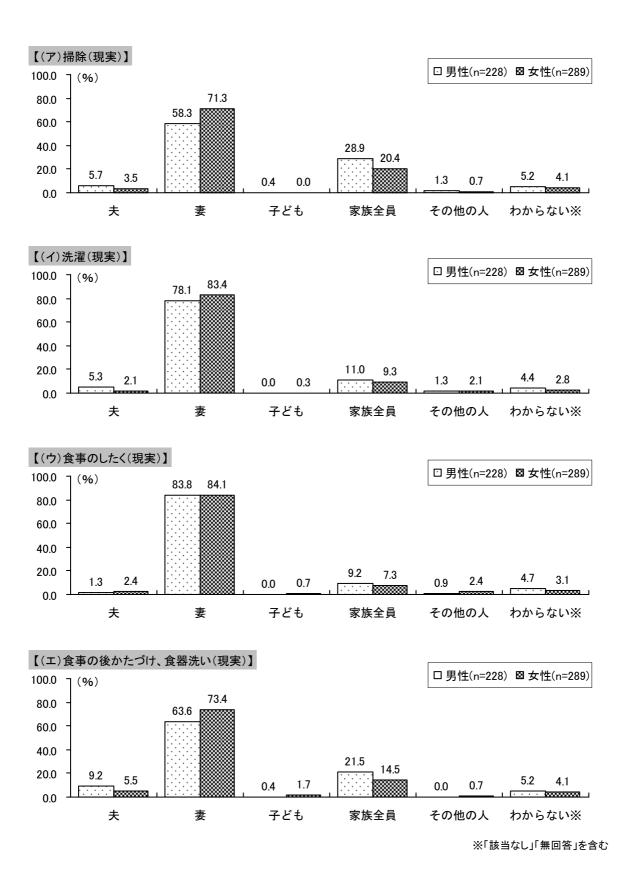
問6. (ア)~(キ)の家事は主にだれが分担するのが望ましいと思いますか。それぞれ1~7の中から1つずつ選んで〇印をつけてください。

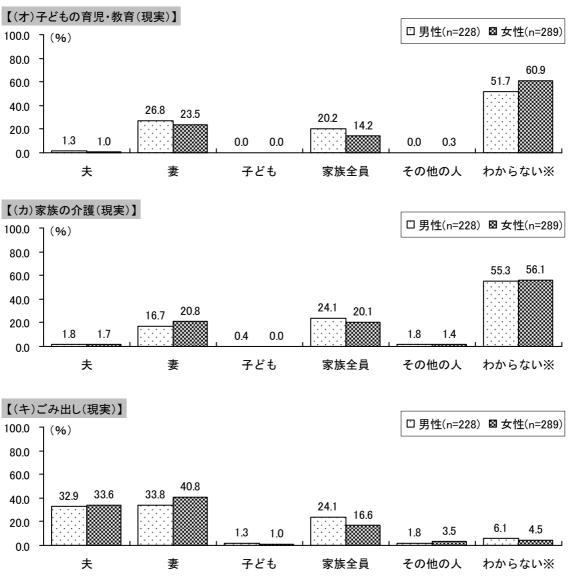
実際の家事の分担については、「(ア)掃除」「(イ)洗濯」「(ウ)食事のしたく」「(エ)食事の後かたづけ、食器洗い」などでは「妻」が高い割合を占めている。「(キ)ごみ出し」については「夫」と「妻」が近い割合で「家族全員」がそれに続いている。



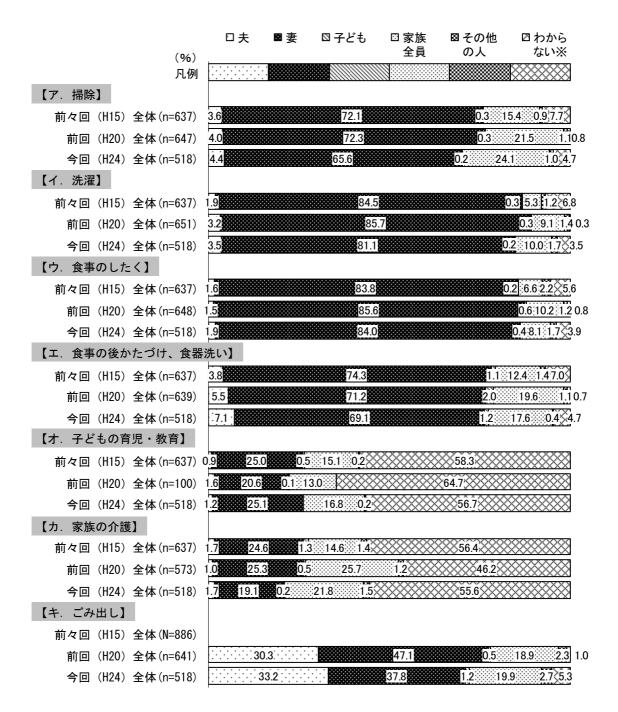
※「該当なし」「無回答」を含む

性別では、「(ア)掃除」「(エ)食事の後かたづけ、食器洗い」「(キ)ごみ出し」などについて、実際は「妻」で分担しているとする女性の割合が、男性を大きく上回っている。





※「該当なし」「無回答」を含む



※「該当無し」「無回答」を含む

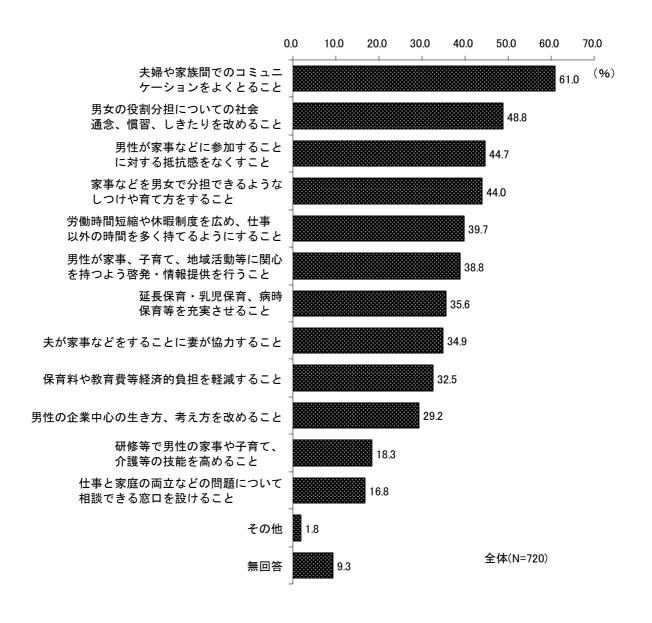
注 1: 平成 20 年の回答割合は「無回答」を除く基数(n=)から算出した数値

注 2:「キ」については、平成 15 年は該当設問無し

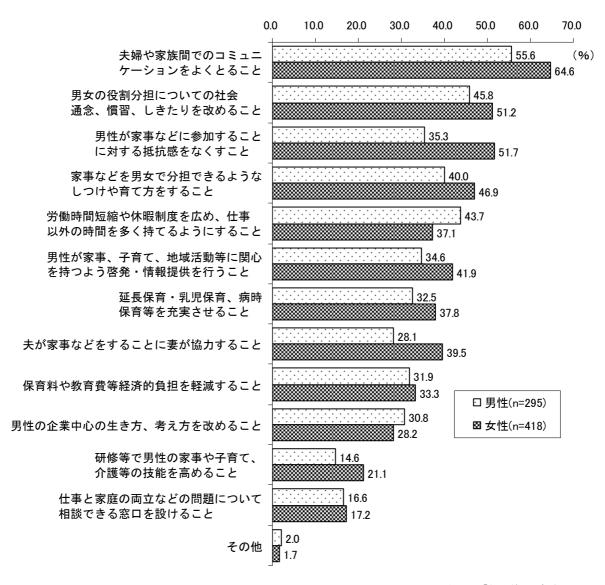
3. 男性が積極的に参加するため必要と思うこと

問7. あなたは、今後男性が女性とともに家事、子育て、介護など家庭での活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが最も必要だと思いますか。次の中から、あてはまるものすべてに〇印をつけてください。

男性が女性とともに家事、子育て、介護など家庭での活動に積極的に参加していくために必要と思うことについては、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくとること」の割合が61.0%と最も高く、次いで「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」(48.8%)、「男性が家事などに参加することに対する抵抗感をなくすこと」(44.7%)、「家事などを男女で分担できるようなしつけや育て方をすること」(44.0%)、「労働時間短縮や休暇制度を広め、仕事以外の時間を多く持てるようにすること」(39.7%)の順となっている。



性別では、男性は女性に比べ「労働時間短縮や休暇制度を広め、仕事以外の時間を多く持てるようにすること」の割合が高く、女性は「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくとること」「男性が家事などに参加することに対する抵抗感をなくすこと」「夫が家事などをすることに妻が協力すること」などで男性を上回っている。



注:図中「無回答」は省略している

さらに、性年齢別でみると、男性の50歳代で「男性の企業中心の生き方、考え方を改めること」、女性の30歳代で「労働時間短縮や休暇制度を広め、仕事以外の時間を多く持てるようにすること」、女性の60歳代で「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくとること」「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」などの割合が他の年齢層に比べ高くなっている。

	単位(%)	こと ニケーションをよくとる夫婦や家族間でのコミュ	たりを改めることの社会通念、慣習、しき男女の役割分担について	なくすことることに対する抵抗感を男性が家事などに参加す	方をすることきるようなしつけや育て家事などを男女で分担で	ことを多く持てるようにするをあい、仕事以外の時間労働時間短縮や休暇制度	こと う啓発・情報提供を行う域活動等に関心を持つよ男性が家事、子育て、地	と時保育等を充実させるこ延長保育・乳児保育、病	に妻が協力すること夫が家事などをすること	負担を軽減すること保育料や教育費等経済的
	全体(N=720)	61.0	48.8	44.7	44.0	39.7	38.8	35.6	34.9	32.5
	29歳以下(n=20)	45.0	50.0	30.0	25.0	40.0	40.0	15.0	15.0	35.0
男性年齢	30歳代(n=37)	56.8	35.1	43.2	32.4	54.1	40.5	37.8	29.7	45.9
上丘	40歳代(n=37)	45.9	32.4	27.0	32.4	54.1	21.6	40.5	18.9	40.5
齢	50歳代(n=41)	58.5	46.3	29.3	31.7	46.3	36.6	39.0	34.1	43.9
別	60歳代(n=90)	53.3	48.9	34.4	41.1	41.1	30.0	28.9	23.3	23.3
	70歳以上(n=69)	63.8	53.6	42.0	55.1	36.2	42.0	31.9	39.1	23.2
	29歳以下(n=36)	66.7	47.2	50.0	41.7	44.4	47.2	36.1	22.2	38.9
女	30歳代(n=48)	60.4	39.6	39.6	47.9	56.3	31.3	43.8	37.5	37.5
女性年齢	40歳代(n=50)	68.0	58.0	60.0	52.0	46.0	36.0	20.0	38.0	30.0
齢	50歳代(n=94)	55.3	46.8	46.8	41.5	36.2	33.0	43.6	30.9	31.9
別	60歳代(n=110)	72.7	60.9	60.0	55.5	30.9	52.7	47.3	44.5	37.3
	70歳以上(n=79)	63.3	48.1	48.1	39.2	26.6	45.6	26.6	51.9	26.6

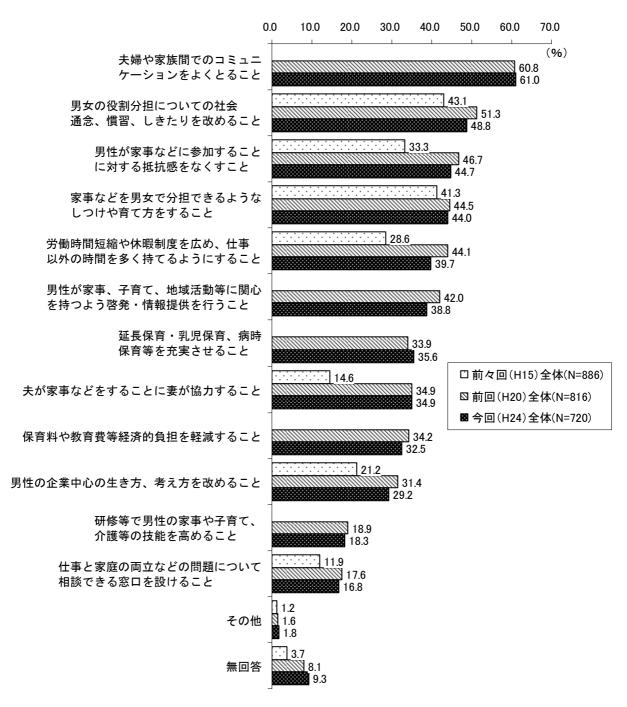
	単位(%)	方、考え方を改めること男性の企業中心の生き	めること 育て、介護等の技能を高研修等で男性の家事や子	窓口を設けること問題について相談できる仕事と家庭の両立などの	その他
	全体(N=720)	29.2	18.3	16.8	1.8
	29歳以下(n=20)	20.0	25.0	20.0	5.0
男	30歳代(n=37)	35.1	8.1	16.2	2.7
性年	40歳代(n=37)	18.9	10.8	10.8	2.7
齢	50歳代(n=41)	48.8	14.6	22.0	2.4
別	60歳代(n=90)	33.3	6.7	13.3	0.0
	70歳以上(n=69)	24.6	27.5	20.3	2.9
,	29歳以下(n=36)	19.4	13.9	11.1	0.0
女	30歳代(n=48)	29.2	8.3	6.3	2.1
性年	40歳代(n=50)	44.0	10.0	14.0	2.0
平 齢 別	50歳代(n=94)	31.9	19.1	14.9	3.2
	60歳代(n=110)	25.5	32.7	20.9	0.9
	70歳以上(n=79)	21.5	25.3	26.6	1.3

注:表中の「網掛け」は、各クロス集計(性別・年齢別など)において最も高い割合を示している。

⁽例/年齢別の場合、最も割合が高い年齢層に網掛け。)

但し、回答割合が 10%未満の項目、n数が 10未満の項目、及び「その他」については網掛けしていない。

また「無回答」は表記から省略している。本報告書においては以下同様。



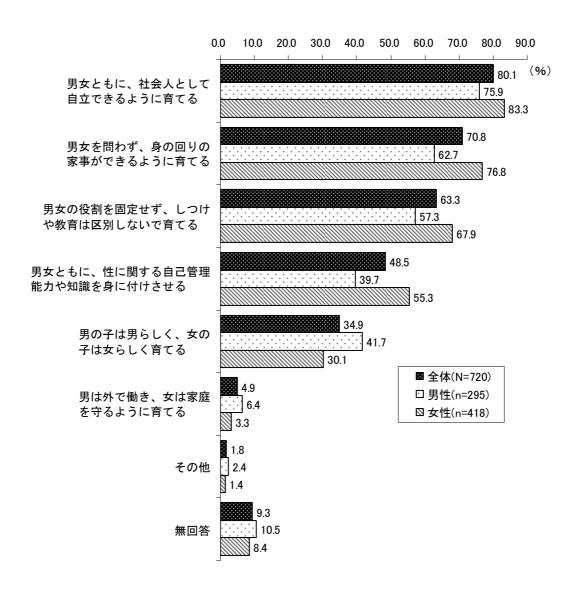
注:H15年に設定されていなかった項目がある

4. 子どもの育て方について

問8. あなたは、家庭で子どもを育てる場合、どのように育てたいと思いますか。次の中から、あてはまるものすべてに〇印をつけてください。お子さんがいらっしゃらない場合も、いると仮定してお答えください。

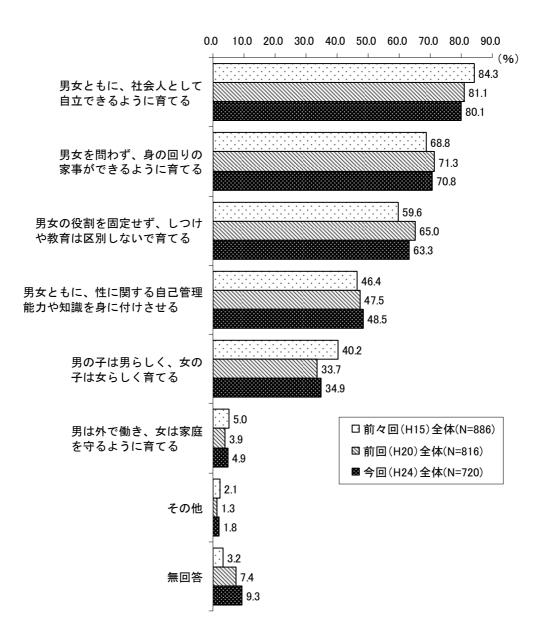
子どもの育て方については、全体では「男女ともに、社会人として自立できるように育てる」の割合が80.1%と最も高く、次いで「男女を問わず、身の回りの家事ができるように育てる」(70.8%)、「男女の役割を固定せず、しつけや教育は区別しないで育てる」(63.3%)、「男女ともに、性に関する自己管理能力や知識を身に付けさせる」(48.5%)の順となっている。

性別では、男性は女性に比べ「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」の割合が高く、女性は「男女を問わず、身の回りの家事ができるように育てる」「男女の役割を固定せず、しつけや教育は区別しないで育てる」「男女ともに、性に関する自己管理能力や知識を身に付けさせる」などで男性を上回っている。



性年齢別でみると、男女ともに年齢が上がるほど「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」の割合が増える傾向にある。また、女性の50歳代では、他の年齢層に比べ「男女ともに、社会人として自立できるように育てる」の割合が高い。

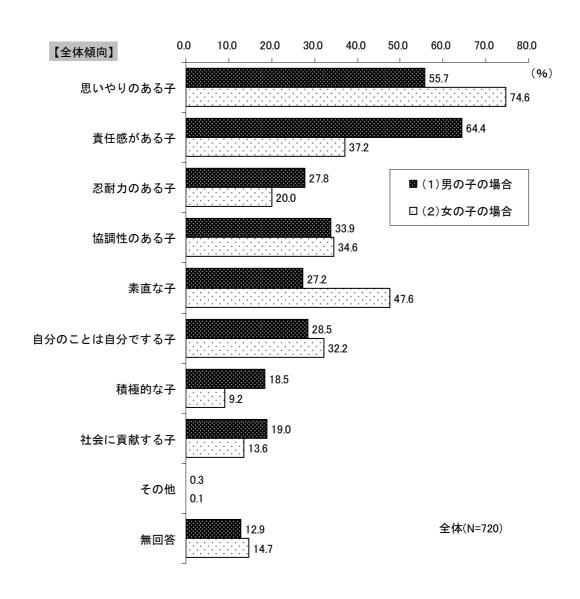
単位(%)		るて自立できるように育て男女ともに、社会人とし	てるの家事ができるように育男女を問わず、身の回り	いで育てるしつけや教育は区別しな男女の役割を固定せず、	に付けさせる自己管理能力や知識を身男女ともに、性に関する	子は女らしく育てる男の子は男らしく、女の	を守るように育てる男は外で働き、女は家庭	その他
	全体(N=720)	80.1	70.8	63.3	48.5	34.9	4.9	1.8
	29歳以下(n=20)	65.0	60.0	40.0	25.0	20.0	0.0	5.0
男	30歳代(n=37)	70.3	64.9	51.4	43.2	43.2	5.4	0.0
性年	40歳代(n=37)	70.3	70.3	48.6	29.7	35.1	2.7	2.7
齢	50歳代(n=41)	73.2	56.1	56.1	36.6	29.3	0.0	4.9
別	60歳代(n=90)	78.9	55.6	62.2	41.1	41.1	8.9	3.3
	70歳以上(n=69)	82.6	71.0	63.8	46.4	58.0	11.6	0.0
	29歳以下(n=36)	75.0	58.3	58.3	50.0	8.3	2.8	2.8
女	30歳代(n=48)	77.1	70.8	60.4	52.1	25.0	2.1	2.1
性年	40歳代(n=50)	84.0	84.0	72.0	58.0	24.0	2.0	2.0
齢	50歳代(n=94)	90.4	80.9	69.1	53.2	22.3	1.1	0.0
別	60歳代(n=110)	89.1	84.5	78.2	60.0	32.7	1.8	0.9
	70歳以上(n=79)	73.4	68.4	58.2	54.4	53.2	10.1	2.5



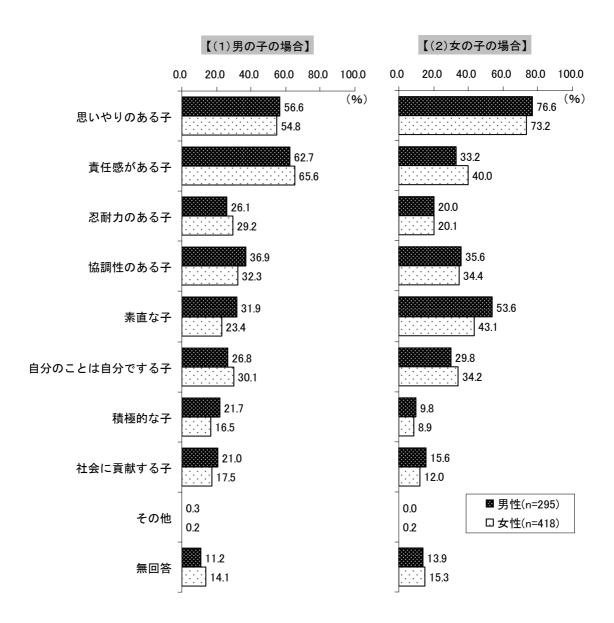
5. 子どもに求める育ち方について

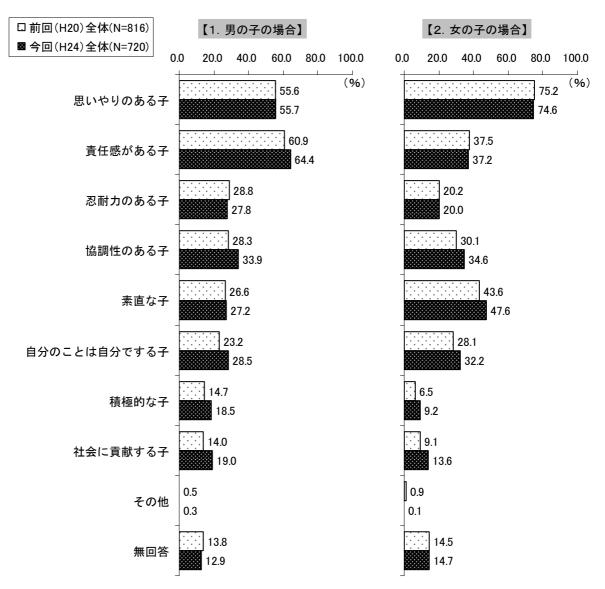
問9. あなたは、自分の子どもがどのように育ってほしい(ほしかった)と思いますか。次の中から、 (男の子の場合)、(女の子の場合)それぞれ選択肢の中から3つまで選んで〇印をつけてく ださい。お子さんがいらっしゃらない場合も、一般的なこととしてお答えください。

子どもに求める育ち方については、男の子の場合、「責任感がある子」の割合が 64.4% と最も高く、次いで「思いやりのある子」(55.7%)、「協調性のある子」(33.9%) の順となっている。女の子の場合は「思いやりのある子」(74.6%)、「素直な子」(47.6%)、「責任感がある子」(37.2%) の順となっている。特に「責任感がある子」については男の子の場合の割合が女の子の場合の割合を大きく上回っており、逆に「素直な子」「思いやりのある子」などでは、女の子の場合の割合が男の子を大きく上回っており、差が顕著にみられる。



男性は、女の子に対して「素直な子」を求める割合が女性を上回っている。また、女性は女の子に対して「責任感がある子」を求める割合が男性を上回っていることなどが目立っている。



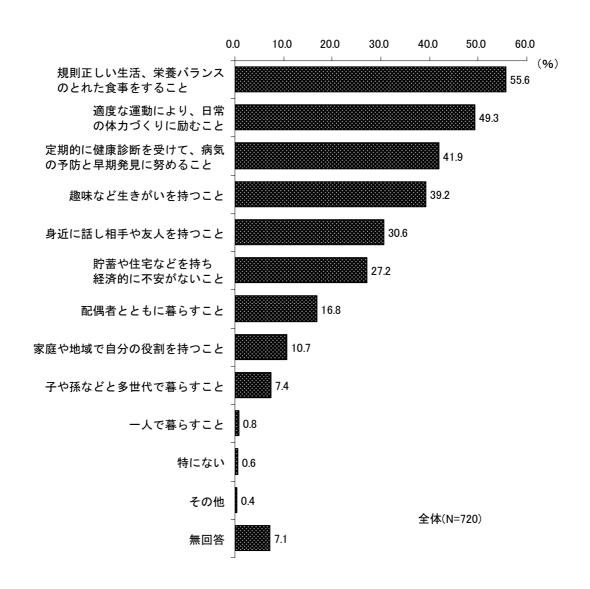


注: 平成 15 年は該当設問無し

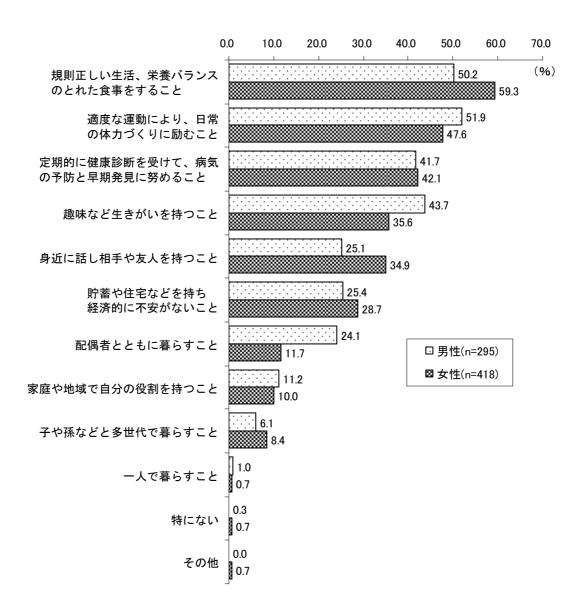
6. 生涯を健康に過ごすために必要と思うこと

問 10. あなたはご自分の生涯を健康に過ごすために必要だと思うことは何ですか。次の中から、3 つまで選んで〇印をつけてください。

生涯を健康に過ごすために必要と思うことについては、「規則正しい生活、栄養バランスのとれた食事をすること」の割合が55.6%と半数以上で最も高く、次いで「適度な運動により、日常の体力づくりに励むこと」(49.3%)、「定期的に健康診断を受けて、病気の予防と早期発見に努めること」(41.9%)、「趣味など生きがいを持つこと」(39.2%)、「身近に話し相手や友人を持つこと」(30.6%)の順となっている。



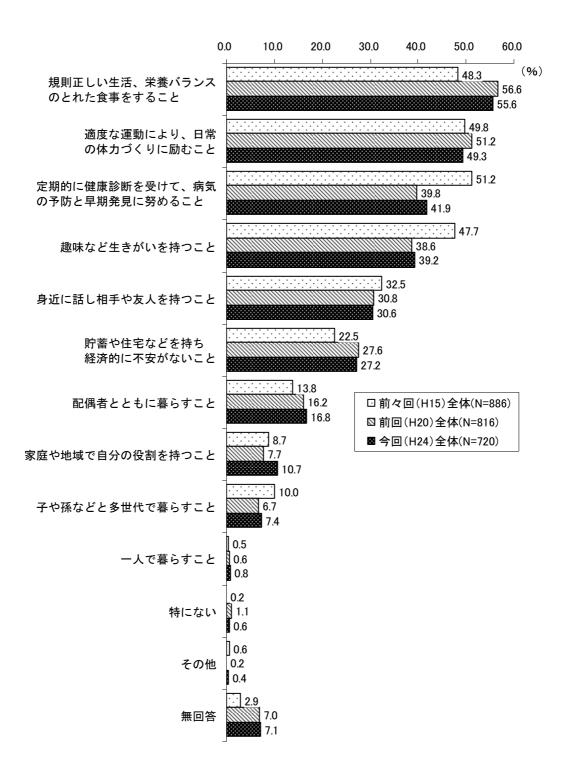
性別でみると、男性は女性に比べ「趣味など生きがいを持つこと」「配偶者とともに暮らすこと」の割合が高く、女性は「規則正しい生活、栄養バランスのとれた食事をすること」「身近に話し相手や友人を持つこと」などで男性を上回っている。



性年齢別では、特に男性の70歳以上で「定期的に健康診断を受けて、病気の予防と早期発見に努めること」、男性の60歳以上では「配偶者とともに暮らすこと」などの割合が高くなっている。また、女性の60歳以上では、他の年齢層に比べ「子や孫などと多世代で暮らすこと」などの割合が高くなっている。

	単位(%)	こと ランスとれた食事をする規則正しい生活、栄養バ	の体力づくりに励むこと適度な運動により、日常	見に努めることて、病気の予防と早期発定期的に健康診断を受け	こと 趣味など生きがいを持つ	持つこと	済的に不安がないこと貯蓄や住宅などを持ち経	と配偶者とともに暮らすこ	を持つこと家庭や地域で自分の役割	らすこと
	全体(N=720)	55.6	49.3	41.9	39.2	30.6	27.2	16.8	10.7	7.4
	29歳以下(n=20)	50.0	40.0	20.0	45.0	30.0	35.0	10.0	5.0	0.0
男 性	30歳代(n=37)	54.1	51.4	40.5	56.8	10.8	35.1	18.9	2.7	5.4
年	40歳代(n=37)	45.9	51.4	45.9	40.5	21.6	18.9	18.9	5.4	10.8
齢	50歳代(n=41)	51.2	58.5	31.7	56.1	26.8	34.1	12.2	19.5	4.9
別	60歳代(n=90)	45.6	46.7	37.8	43.3	25.6	23.3	30.0	14.4	5.6
	70歳以上(n=69)	55.1	59.4	58.0	31.9	31.9	17.4	33.3	11.6	7.2
1_	29歳以下(n=36)	61.1	33.3	33.3	50.0	22.2	19.4	5.6	8.3	5.6
女	30歳代(n=48)	45.8	37.5	29.2	29.2	35.4	37.5	10.4	4.2	6.3
女性年齢別	40歳代(n=50)	68.0	44.0	38.0	40.0	36.0	30.0	4.0	8.0	4.0
輪	50歳代(n=94)	64.9	47.9	40.4	38.3	41.5	35.1	7.4	8.5	4.3
別	60歳代(n=110)	58.2	53.6	49.1	40.9	37.3	24.5	16.4	12.7	11.8
	70歳以上(n=79)	57.0	54.4	49.4	19.0	27.8	24.1	19.0	13.9	13.9

	単位(%)	一人で暮らすこと	特にない	その他	
	全体(N=720)	0.8	0.6	0.4	
В	29歳以下(n=20)	0.0	0.0	0.0	
男	30歳代(n=37)	0.0	0.0	0.0	
性年	40歳代(n=37)	2.7	0.0	0.0	
齢	50歳代(n=41)	0.0	0.0	0.0	
別	60歳代(n=90)	2.2	1.1	0.0	
	70歳以上(n=69)	0.0	0.0	0.0	
	29歳以下(n=36)	0.0	0.0	0.0	
女性	30歳代(n=48)	0.0	0.0	2.1	
年	40歳代(n=50)	2.0	2.0	4.0	
齢	50歳代(n=94)	2.1	1.1	0.0	
別	60歳代(n=110)	0.0	0.9	0.0	
	70歳以上(n=79)	0.0	0.0	0.0	

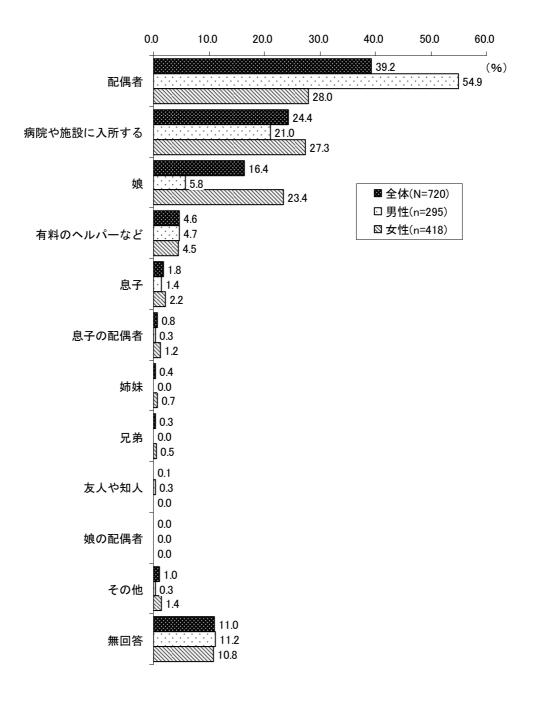


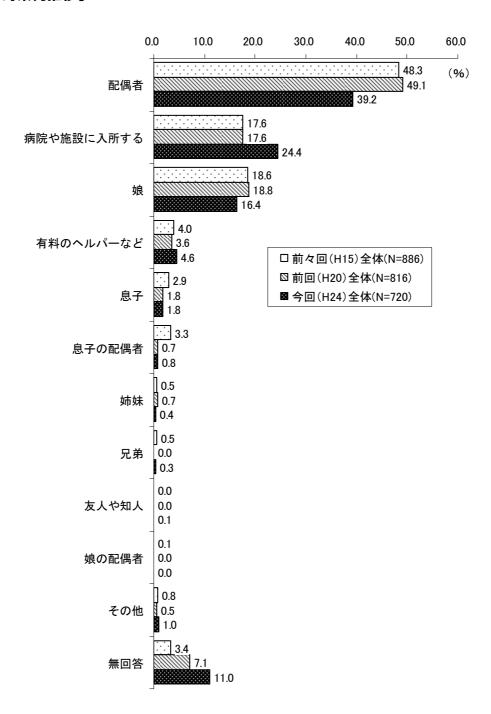
7. 自分を介護してほしい人

問 11. 仮にあなたが高齢になり介護を必要とするようになったら、誰に一番頼みたいですか。次の中から、1つ選んで〇印をつけてください。例えば配偶者がいない場合でも「夫・妻に頼みたい」とお考えなら「1 配偶者」に、娘がいない方でも「娘がいたら娘に頼みたい」というのであれば「2 娘」に〇をつけてください。

自分を介護してほしい人については、全体では「配偶者」の割合が 39.2%と最も高く、 次いで「病院や施設に入所する」(24.4%)、「娘」(16.4%) の順となっている。

性別では、男性は女性に比べ「配偶者」の割合が高く、女性は「病院や施設に入所する」 「娘」などで男性を上回っている。



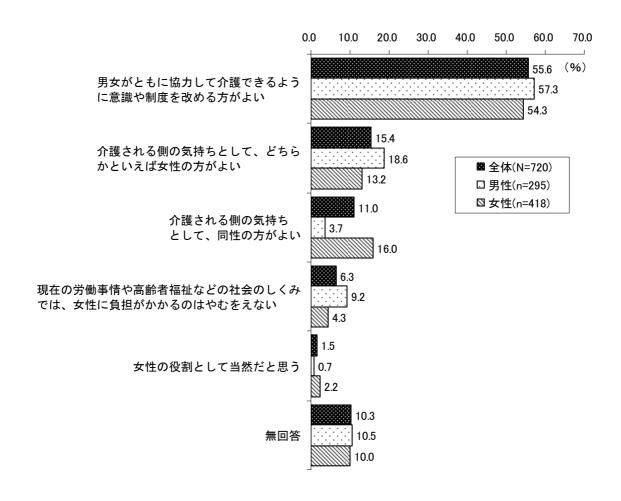


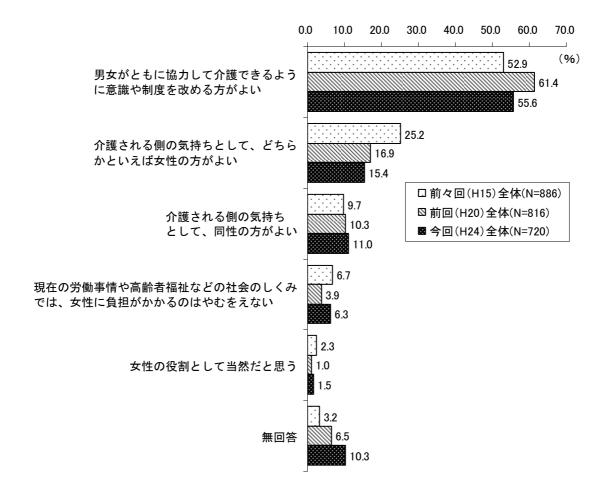
8. 高齢者の介護のあり方について

問 12. あなたは、高齢者の介護のあり方についてどのように思われますか。あなたの意見に最も 近いものを次の中から、1つ選んで〇印をつけてください。

高齢者の介護のあり方については、全体では「男女がともに協力して介護できるように 意識や制度を改める方がよい」の割合が55.6%と突出して最も高くなっている。次いで「介 護される側の気持ちとして、どちらかといえば女性の方がよい」が15.4%、「介護される 側の気持ちとして、同性の方がよい」が11.0%と続いている。

性別では、男性は女性に比べ「介護される側の気持ちとして、どちらかといえば女性の 方がよい」「現在の労働事情や高齢者福祉などの社会のしくみでは、女性に負担がかかるの はやむをえない」などの割合が高く、女性は「介護される側の気持ちとして、同性の方が よい」などで男性を上回っている。

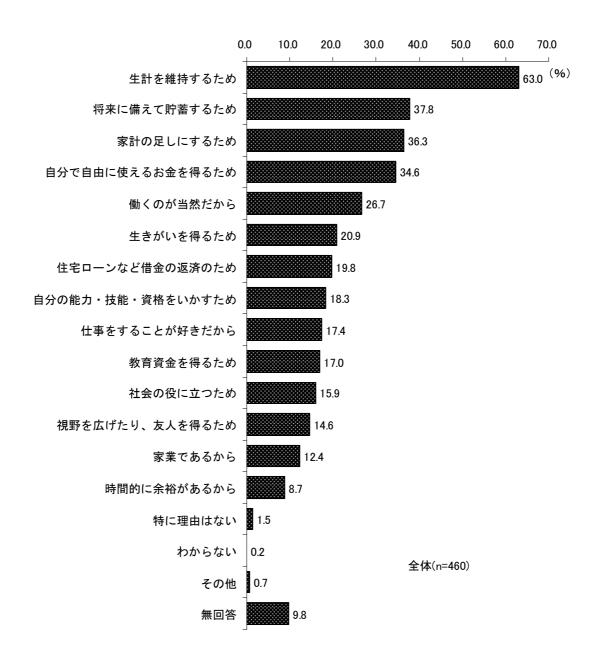




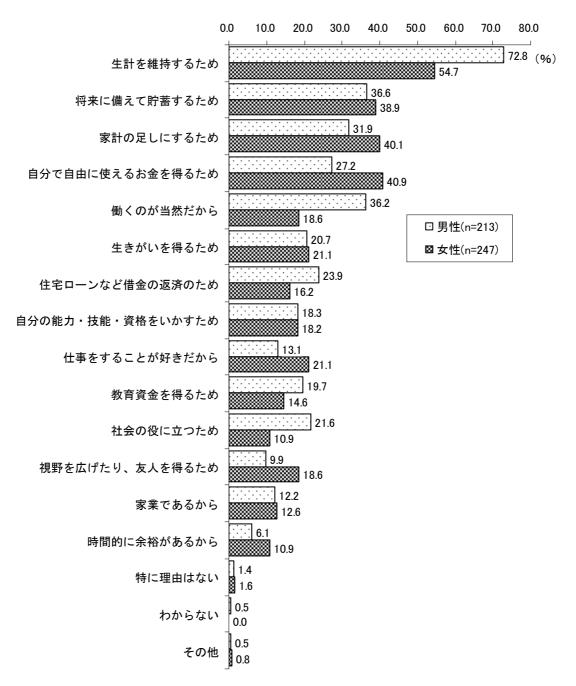
1. 就労理由

問 13. あなたが現在働いているのは、どのような理由からですか。次の中から。あてはまるものすべてに〇印をつけてください。

働いている理由については、「生計を維持するため」の割合が 63.0%と突出して最も高く、次いで「将来に備えて貯蓄するため」(37.8%)、「家計の足しにするため」(36.3%)、「自分で自由に使えるお金を得るため」(34.6%)の順となっている。



性別では、男性は女性に比べ「生計を維持するため」「働くのが当然だから」「社会の役に立つため」などの割合が高く、女性は「家計の足しにするため」「自分で自由に使えるお金を得るため」「仕事をすることが好きだから」「視野を広げたり、友人を得るため」などで男性を上回っている。

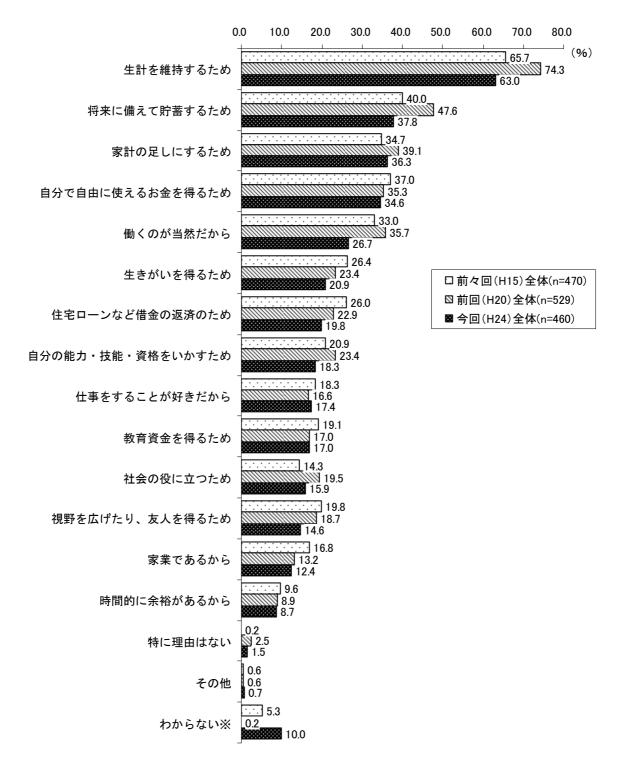


注:図中「無回答」は省略している

性年齢別では、男女ともに年齢が若い層ほど「将来に備えて貯蓄するため」「働くのが当然だから」などの割合が高く、女性では29歳以下から50歳代まで幅広い年齢層で「視野を広げたり、友人を得るため」などが高くなっている。

	単位(%)	生計を維持するため	め来に備えて貯蓄するた	家計の足しにするため	を得るため自分で自由に使えるお金	働くのが当然だから	生きがいを得るため	済のため 住宅ローンなど借金の返	をいかすため自分の能力・技能・資格	から	教育資金を得るため	社会の役に立つため
	全体(n=460)	63.0	37.8	36.3	34.6	26.7	20.9	19.8	18.3	17.4	17.0	15.9
	29歳以下(n=12)	75.0	66.7	50.0	33.3	33.3	16.7	16.7	25.0	16.7	16.7	25.0
男	30歳代(n=37)	91.9	51.4	27.0	35.1	54.1	13.5	27.0	13.5	5.4	35.1	27.0
男性年	40歳代(n=36)	94.4	38.9	33.3	38.9	52.8	25.0	50.0	16.7	16.7	36.1	19.4
齢	50歳代(n=36)	91.7	50.0	27.8	16.7	36.1	25.0	27.8	25.0	16.7	33.3	41.7
別	60歳代(n=63)	58.7	23.8	34.9	25.4	25.4	20.6	15.9	19.0	11.1	1.6	12.7
	70歳以上(n=28)	25.0	14.3	25.0	17.9	17.9	21.4	3.6	14.3	17.9	3.6	10.7
١,	29歳以下(n=24)	62.5	54.2	37.5	41.7	33.3	12.5	20.8	25.0	12.5	16.7	12.5
女世	30歳代(n=39)	79.5	53.8	53.8	66.7	28.2	12.8	25.6	20.5	25.6	25.6	7.7
女性年齢	40歳代(n=41)	56.1	43.9	34.1	39.0	14.6	19.5	19.5	24.4	17.1	34.1	19.5
一輪	50歳代(n=74)	60.8	36.5	43.2	45.9	14.9	24.3	18.9	18.9	21.6	10.8	10.8
別	60歳代(n=45)	37.8	28.9	40.0	26.7	13.3	28.9	6.7	13.3	33.3	0.0	6.7
	70歳以上(n=23)	17.4	17.4	21.7	13.0	17.4	21.7	0.0	4.3	4.3	0.0	8.7

単位(%)		得るため、友人を	家業であるから	時間的に余裕があるから	特に理由はない	わからない	その他	
	全体(n=460)	14.6	12.4	8.7	1.5	0.2	0.7	
<u> </u>	29歳以下(n=12)	8.3	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	
男	30歳代(n=37)	13.5	2.7	0.0	0.0	0.0	2.7	
性	40歳代(n=36)	11.1	2.8	2.8	0.0	0.0	0.0	
年 齢	50歳代(n=36)	11.1	11.1	0.0	2.8	0.0	0.0	
別	60歳代(n=63)	6.3	19.0	14.3	1.6	0.0	0.0	
	70歳以上(n=28)	10.7	28.6	10.7	3.6	0.0	0.0	
	29歳以下(n=24)	25.0	4.2	0.0	8.3	0.0	4.2	
女	30歳代(n=39)	25.6	7.7	7.7	0.0	0.0	0.0	
性年	40歳代(n=41)	24.4	7.3	4.9	0.0	0.0	0.0	
齢	50歳代(n=74)	21.6	9.5	17.6	1.4	0.0	0.0	
別	60歳代(n=45)	6.7	24.4	15.6	2.2	0.0	0.0	
	70歳以上(n=23)	4.3	26.1	8.7	0.0	0.0	0.0	



※「該当無し」「無回答」を含む 注: 平成 20 年の回答割合は「無回答」を除く基数(n=)から算出した数値

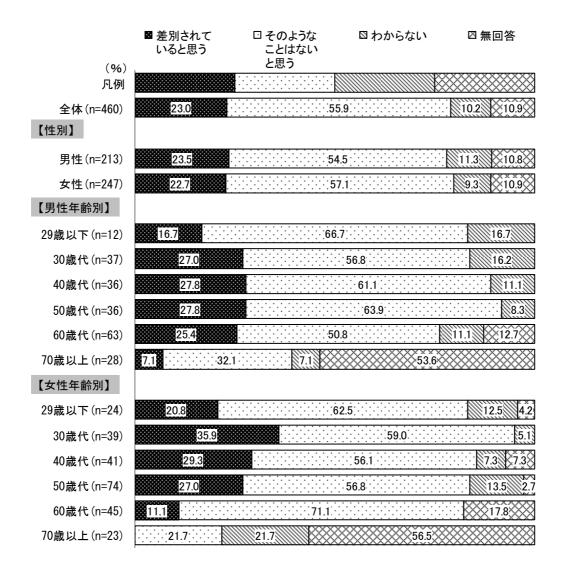
2. 仕事の内容について

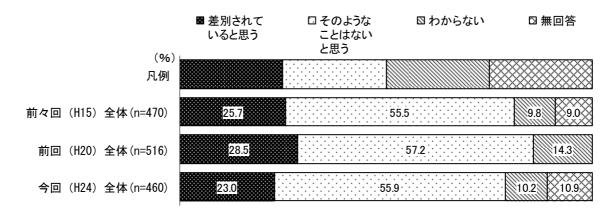
(1) 仕事の内容や待遇面の男女差について

問 14. あなたの今の職場では、仕事の内容や待遇面で、女性と男性の差別はあると思いますか。 次の中から、あてはまるものを1つ選んで〇印をつけてください。

仕事の内容や待遇面の男女差については、「そのようなことはないと思う」が 55.9% と 過半数を占めるが、「差別されていると思う」は 23.0% みられた。

性別では大きな差は目立たないが、女性は特に 30 歳代で「差別されていると思う」割合が、他の年齢層を上回っている。





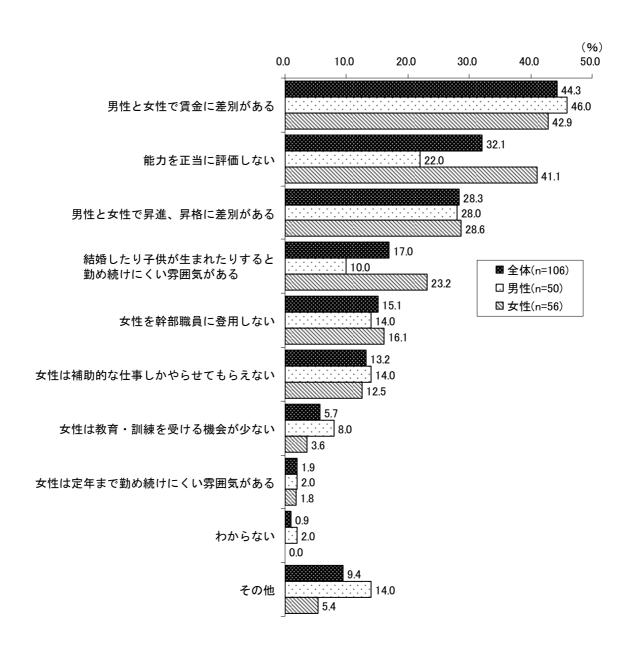
注: 平成 20 年の回答割合は「無回答」を除く基数(n=)から算出した数値

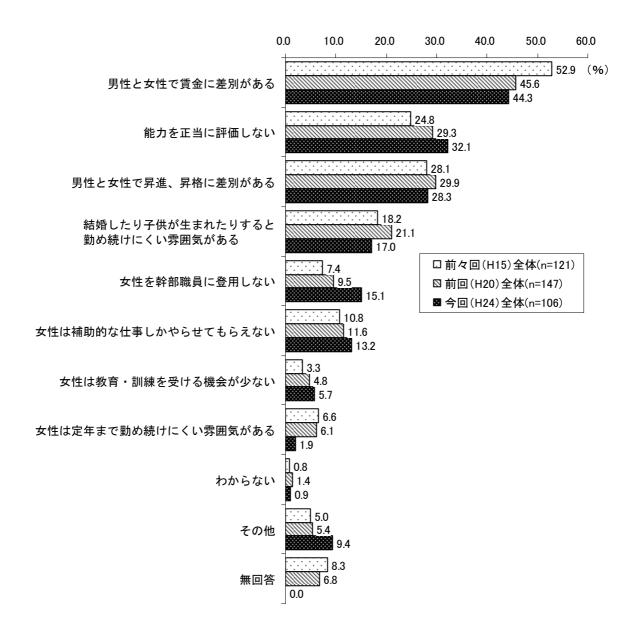
(2)差別の内容

問 14-2. それは具体的にどのようなことですか。次の中から、2つまで選んで〇印をつけてください。

差別の内容については、全体では「男性と女性で賃金に差別がある」の割合が44.3%と最も高く、次いで「能力を正当に評価しない」(32.1%)、「男性と女性で昇進、昇格に差別がある」(28.3%)、「結婚したり子供が生まれたりすると勤め続けにくい雰囲気がある」(17.0%)の順となっている。

性別では、男性は女性に比べ「女性は教育・訓練を受ける機会が少ない」などの割合が やや高いが、女性は「能力を正当に評価しない」「結婚したり子供が生まれたりすると勤め 続けにくい雰囲気がある」などで男性を上回っている。

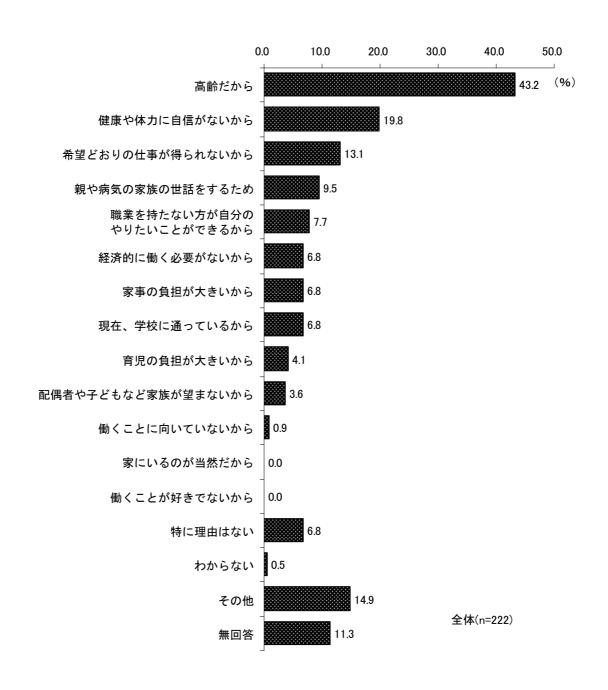




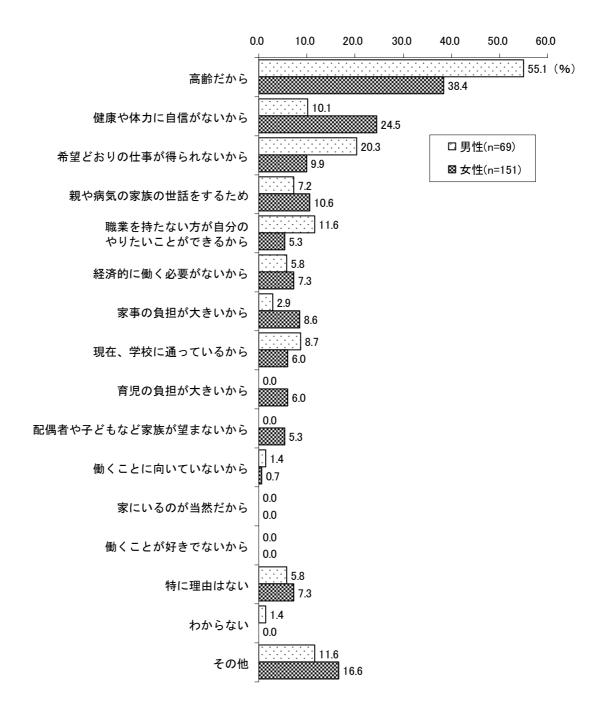
3. 未就労理由

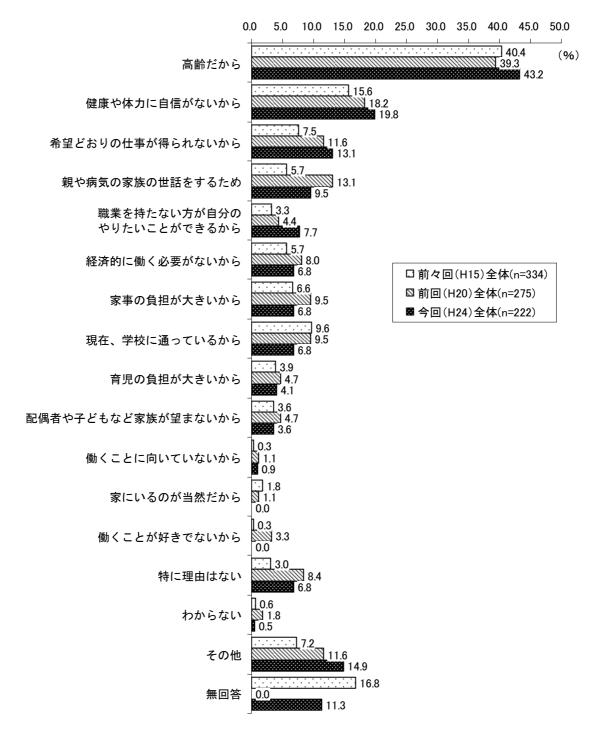
問 15. あなたが働いていないのはどうしてですか。次の中から、あてはまるものすべてに〇印をつけてください。

未就労理由については、「高齢だから」の割合が43.2%と突出して最も高く、次いで「健康や体力に自信がないから」(19.8%)、「希望どおりの仕事が得られないから」(13.1%)の順となっている。



性別でみると、男性は女性に比べ「高齢だから」「希望どおりの仕事が得られないから」などの割合が高く、女性は「健康や体力に自信がないから」「家事の負担が大きいから」「育児の負担が大きいから」などで男性を上回っている。



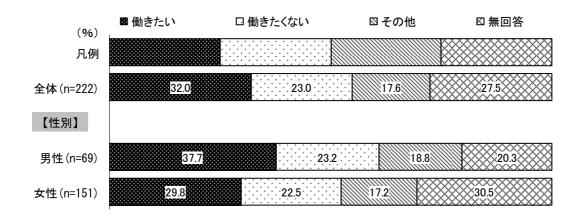


注: 平成 20 年の回答割合は「無回答」を除く基数(n=)から算出した数値

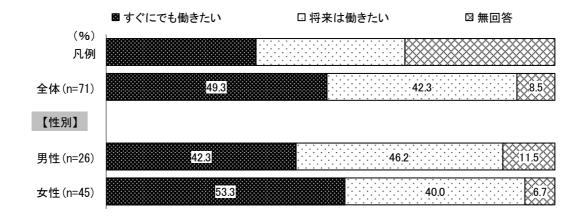
4. 就労意向

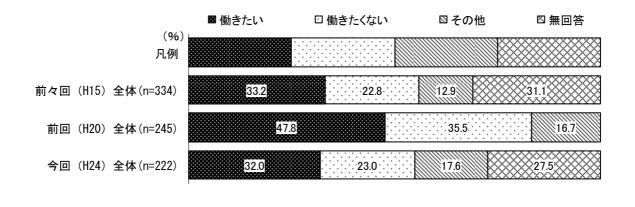
問 16. あなたは働きたいとお考えですか。働きたい方は、すぐにですか、将来的にですか。

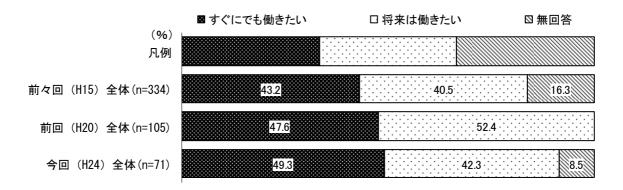
就労意向については、「働きたい」割合は32.0%で、性別では男性で高くなっている。



就労希望時期については「すぐにでも働きたい」が 49.3%と半数近くを占めるが、「将来は働きたい」も 42.3%となっている。「すぐにでも働きたい」割合は、女性で高くなっている。







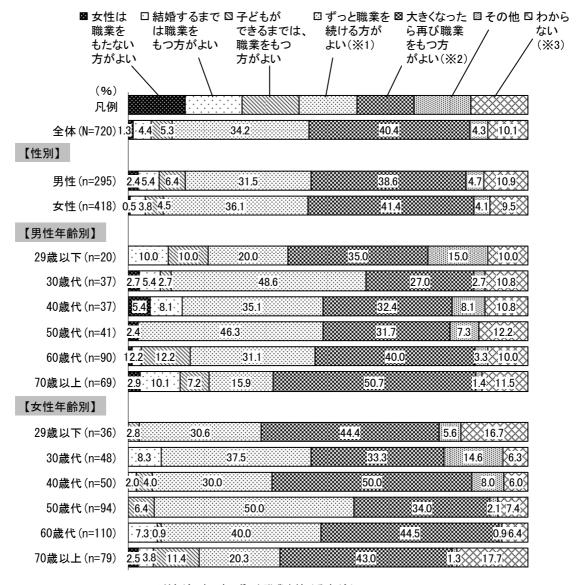
注: 平成 20 年の回答割合は「無回答」を除く基数(n=)から算出した数値

5. 女性が職業をもつことについて

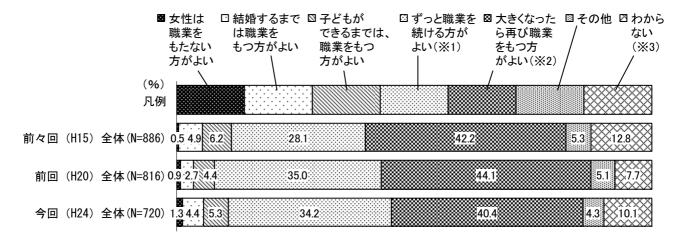
問 17. あなたは、一般に女性が職業をもつことについて、どのようにお考えですか。次の中から、1 つ選んで〇印をつけてください。

女性が職業をもつことについては、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」の割合が40.4%と最も高く、次いで「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」が34.2%で続いており、両者が主な考え方となっている。

性別では大きな差は目立たないが、男性は 70 歳以上で「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」割合が他の年齢層を上回っており、女性は 50 歳代で「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」割合が高いことが目立っている。



- ※1 子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい
- ※2 子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
- ※3「無回答」を含む

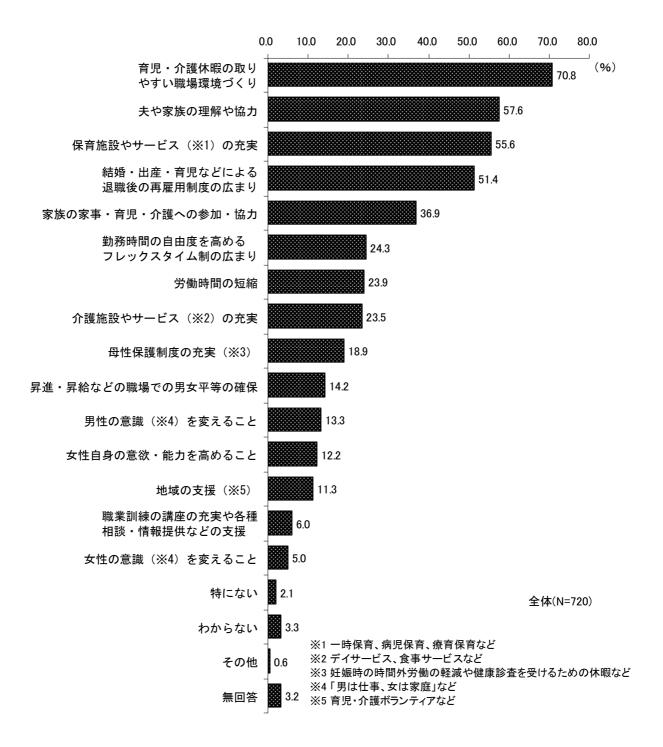


- ※1 子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい
- ※2 子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
- ※3「無回答」を含む

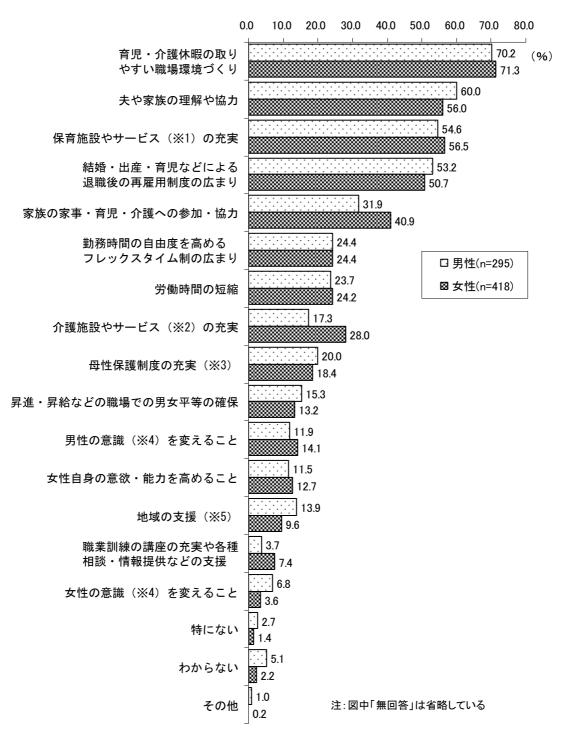
6. 女性が働き続けたり再就職のため必要と思うこと

問 18. あなたは、女性が働き続けたり、再就職するために、どのようなことが必要だと思いますか。 次の中から、重要だと思うことに5つまで〇印をつけてください。

女性が働き続けたり再就職のため必要と思うことついては、「育児・介護休暇の取りやすい職場環境づくり」の割合が70.8%と最も高く、次いで「夫や家族の理解や協力」(57.6%)、「保育施設やサービス(一時保育、病児保育、療育保育など)の充実」(55.6%)、「結婚・出産・育児などによる退職後の再雇用制度の広まり」(51.4%)の順となっている。



性別では、男性は女性に比べ「夫や家族の理解や協力」「地域の支援(育児・介護ボランティアなど)」などの割合が高く、女性は「家族の家事・育児・介護への参加・協力」「介護施設やサービス(デイサービス、食事サービスなど)の充実」などで男性を上回っている。



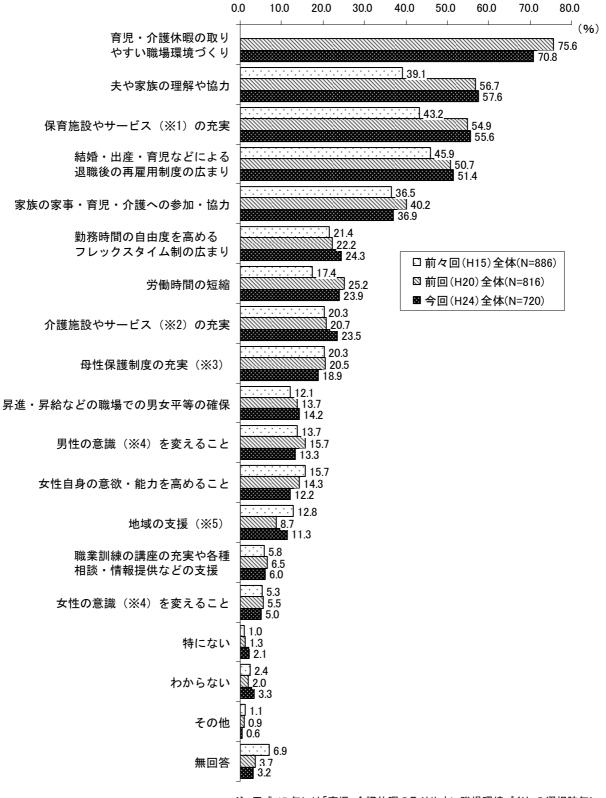
^{※1} 一時保育、病児保育、療育保育など

^{※2} デイサービス、食事サービスなど

^{※3} 妊娠時の時間外労働の軽減や健康診査を受けるための休暇など

^{※4「}男は仕事、女は家庭」など

^{※5} 育児・介護ボランティアなど



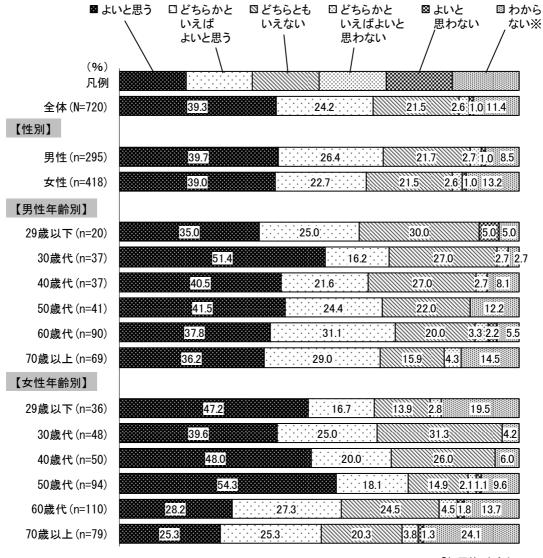
- 注: 平成 15 年には「育児・介護休暇の取りやすい職場環境づくり」の選択肢無し
- ※1 一時保育、病児保育、療育保育など
- ※2 デイサービス、食事サービスなど
- ※3 妊娠時の時間外労働の軽減や健康診査を受けるための休暇など
- ※4「男は仕事、女は家庭」など
- ※5 育児・介護ボランティアなど

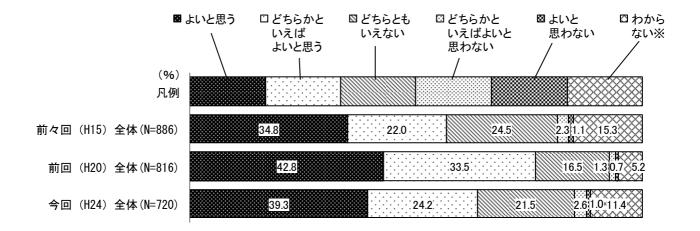
7. 様々な職業分野で女性が増えることについて

問 19. あなたは、今後もっと様々な職業分野で女性が増える方がよいと思いますか。次の中から、 あなたの考えに最も近いもの1つ選んで〇印をつけてください。

様々な職業分野で女性が増えることについては、「よいと思う」が 39.3%、「どちらかといえばよいと思う」が 24.2%で、合計 63.5%が『よい』と回答している。一方、「どちらかといえばよいと思わない」は 2.6%、「よいと思わない」は 1.0%で、合計 3.6%となっている。

性別では大きな差は目立たないが、男性は 30 歳代、女性は 29 歳以下から 50 歳代の幅広い年齢層で「よいと思う」割合が高くなっている。



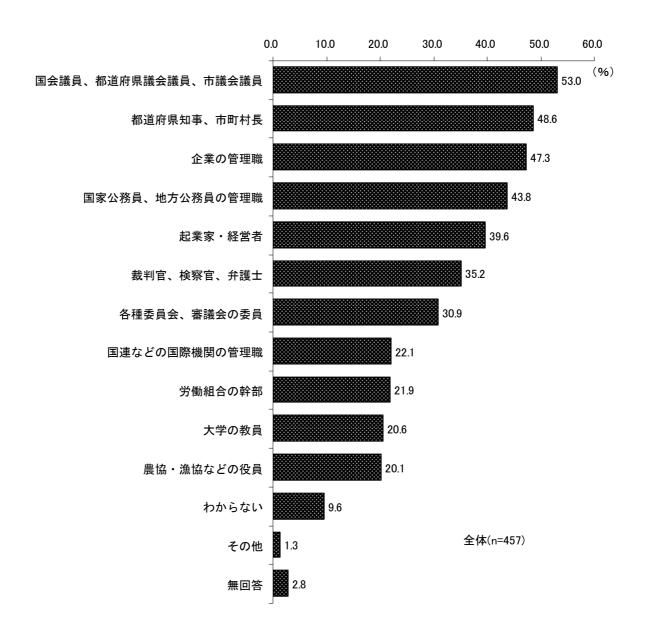


※「無回答」を含む

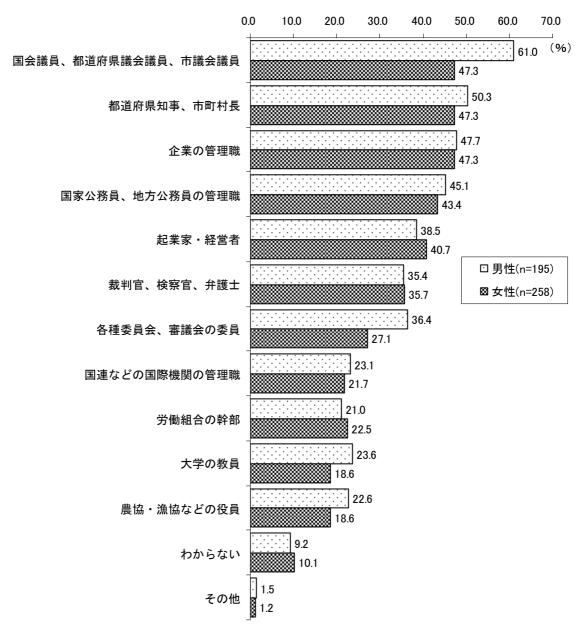
8. 今後女性がもっと増える方がよいと思う役職等

問 19-2. あなたが、次にあげるような政策・方針の決定にかかわる役職において今後女性がもっと増える方がよいと思われるのはどれですか。次の中からあてはまるものすべてに〇印をつけてください。

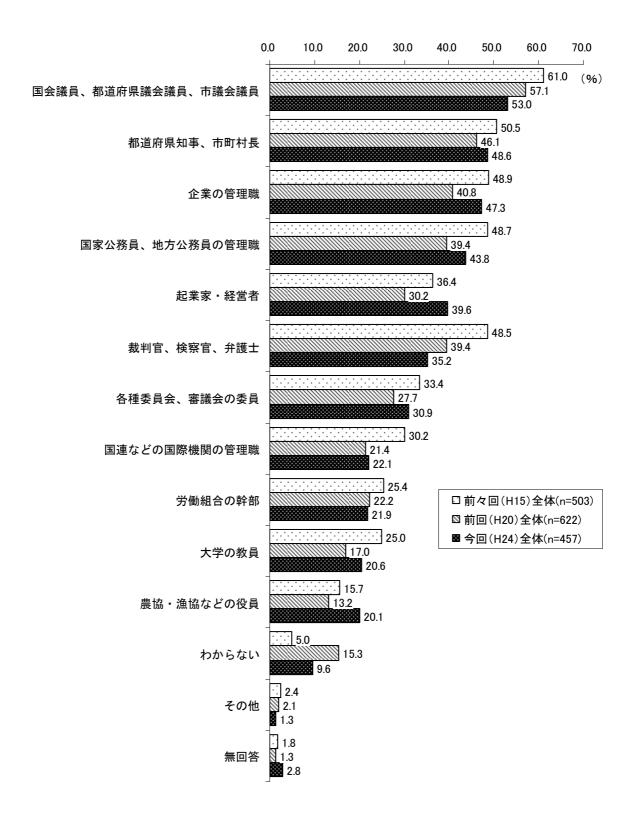
今後女性がもっと増える方がよいと思う役職等については、「国会議員、都道府県議会議員、市議会議員」の割合が53.0%と最も高く、次いで「都道府県知事、市町村長」(48.6%)、「企業の管理職」(47.3%)、「国家公務員、地方公務員の管理職」(43.8%)、「起業家・経営者」(39.6%)の順となっている。



性別では、男性は女性に比べ「国会議員、都道府県議会議員、市議会議員」「各種委員会、 審議会の委員」などの割合が高く、女性は「起業家・経営者」などで男性をやや上回って いる。



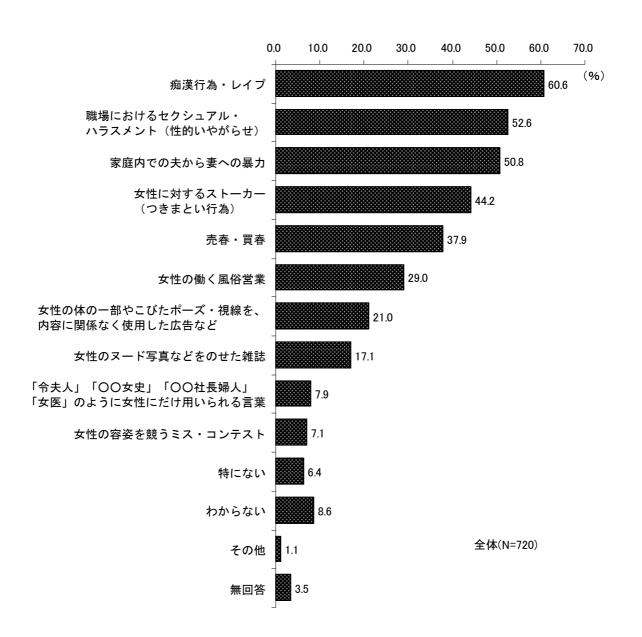
注:図中「無回答」は省略している



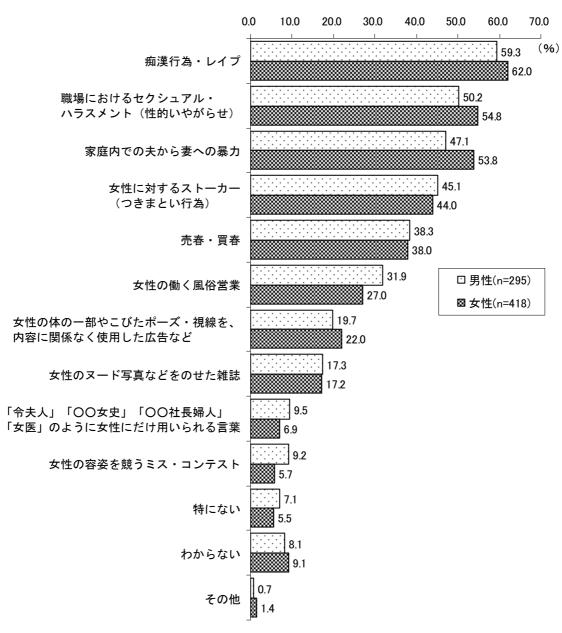
1. 女性の人権が尊重されていないと感じる場面

問 20. あなたは、女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのような場合ですか。次の中から、あてはまるものすべてに〇印をつけてください。

女性の人権が尊重されていないと感じる場面については、「痴漢行為・レイプ」の割合が60.6%と最も高く、次いで「職場におけるセクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)」(52.6%)、「家庭内での夫から妻への暴力」(50.8%)、「女性に対するストーカー(つきまとい行為)」(44.2%)、「売春・買春」(37.9%)の順となっている。



性別では、男性は女性に比べ「女性の働く風俗営業」などの割合が高く、女性は「家庭内での夫から妻への暴力」「職場におけるセクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)」などで男性をやや上回っている。

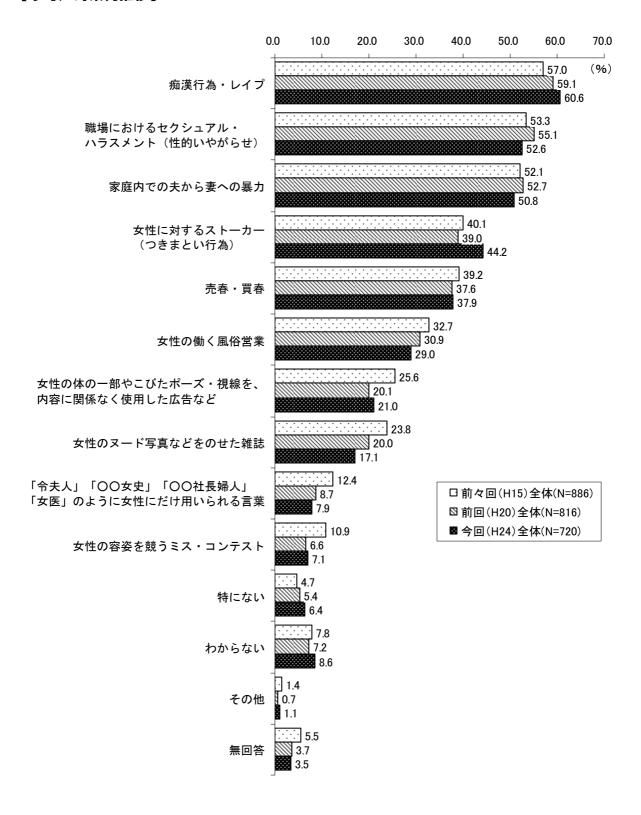


注:図中「無回答」は省略している

性年齢別では、男性の30歳代で「痴漢行為・レイプ」、女性の70歳以上で「女性の体の一部やこびたポーズ・視線を、内容に関係なく使用した広告など」「女性のヌード写真などをのせた雑誌」などの割合が他の年齢層を上回っている。

	単位(%)	痴漢行為・レイプ	いやがらせ)ル・ハラスメント(性的職場におけるセクシュア	暴力家庭内での夫から妻への	(つきまとい行為)女性に対するストーカー	売春・買春	女性の働く風俗営業	ど 関係なく使用した広告なポーズ・視線を、内容に女性の体の一部やこびた	のせた雑誌女性のヌード写真などを	用いられる言葉 医」のように女性にだけ 〇〇社長婦人 」「 女「令夫人」「〇〇女史」
	全体(N=720)	60.6	52.6	50.8	44.2	37.9	29.0	21.0	17.1	7.9
	29歳以下(n=20)	45.0	55.0	50.0	30.0	25.0	25.0	15.0	15.0	10.0
男	30歳代(n=37)	70.3	48.6	40.5	48.6	37.8	24.3	10.8	8.1	10.8
男性年齢	40歳代(n=37)	67.6	35.1	48.6	40.5	21.6	10.8	10.8	2.7	5.4
一輪	50歳代(n=41)	65.9	46.3	56.1	48.8	29.3	26.8	24.4	14.6	14.6
別	60歳代(n=90)	50.0	54.4	41.1	42.2	44.4	36.7	16.7	20.0	6.7
	70歳以上(n=69)	60.9	55.1	52.2	50.7	49.3	46.4	31.9	29.0	11.6
۱_	29歳以下(n=36)	69.4	61.1	55.6	52.8	33.3	19.4	22.2	16.7	0.0
女	30歳代(n=48)	58.3	62.5	54.2	45.8	25.0	16.7	14.6	10.4	10.4
女性年齢	40歳代(n=50)	70.0	60.0	56.0	42.0	26.0	20.0	24.0	12.0	4.0
齢	50歳代(n=94)	62.8	54.3	50.0	39.4	39.4	24.5	14.9	11.7	5.3
別	60歳代(n=110)	63.6	58.2	54.5	42.7	44.5	30.9	21.8	16.4	6.4
	70歳以上(n=79)	51.9	39.2	54.4	46.8	45.6	39.2	34.2	32.9	12.7

	単位(%)	コンテスト女性の容姿を競うミス・	特にない	わからない	その他	
	全体(N=720)	7.1	6.4	8.6	1.1	
	29歳以下(n=20)	10.0	10.0	10.0	5.0	
男	30歳代(n=37)	10.8	8.1	5.4	0.0	
性年	40歳代(n=37)	5.4	10.8	5.4	2.7	
齢	50歳代(n=41)	17.1	2.4	9.8	0.0	
別	60歳代(n=90)	5.6	6.7	10.0	0.0	
	70歳以上(n=69)	10.1	7.2	7.2	0.0	
	29歳以下(n=36)	5.6	8.3	5.6	0.0	
女	30歳代(n=48)	4.2	12.5	12.5	2.1	
性	40歳代(n=50)	8.0	2.0	4.0	2.0	
年齢	50歳代(n=94)	3.2	5.3	6.4	1.1	
別	60歳代(n=110)	3.6	2.7	10.9	0.9	
	70歳以上(n=79)	11.4	6.3	12.7	2.5	

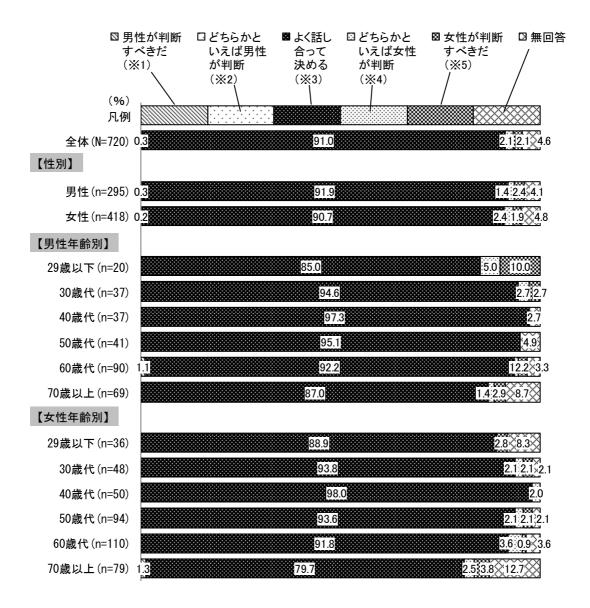


2. 子どもを産むことについて

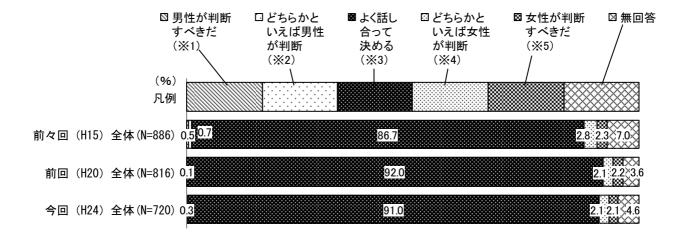
問 21. あなたは、子どもを産むことについてどのようにお考えですか。次の中から、1つ選んで〇印をつけてください。

子どもを産むことについては、全体の91.0%が「子どもを産むか産まないかは、配偶者やパートナー2人でよく話し合って決めることだ」と回答し、特化している。

男性は29歳以下で「子どもを産むか産まないかは、女性が判断すべきだ」の割合が他の 年齢層をやや上回るが、属性による大きな差は目立たない。



- ※1 子どもを産むか産まないかは、男性が判断すべきだ
- ※2 子どもを産むか産まないかは、どちらかといえば男性が判断すべきだ
- ※3 子どもを産むか産まないかは、配偶者やパートナー2人でよく話し合って決めることだ
- ※4 子どもを産むか産まないかは、どちらかといえば女性が判断すべきだ
- ※5 子どもを産むか産まないかは、女性が判断すべきだ

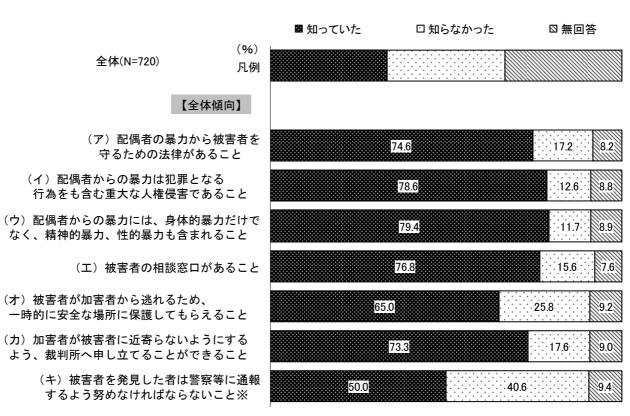


- ※1 子どもを産むか産まないかは、男性が判断すべきだ
- ※2 子どもを産むか産まないかは、どちらかといえば男性が判断すべきだ
- ※3 子どもを産むか産まないかは、配偶者やパートナー2人でよく話し合って決めることだ
- ※4 子どもを産むか産まないかは、どちらかといえば女性が判断すべきだ
- ※5 子どもを産むか産まないかは、女性が判断すべきだ

3. 暴力等に関する認知内容

問 22. あなたは、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関して、次のことを知っていますか。ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者も含みます。以下の(ア)~(キ)について、それぞれ1、2からいずれか1つを選んで〇印をつけてください。

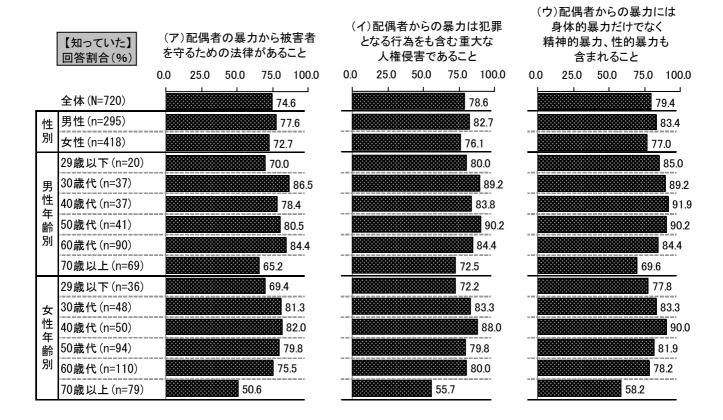
暴力等に関する認知内容については、「(オ)被害者が加害者から逃れるため、一時的に安全な場所に保護してもらえること」及び「(キ)被害者を発見した者は、配偶者暴力相談支援センター又は警察に通報するよう努めなければならないこと」を除き、すべて7割以上の認知率(「知っていた」の割合)となっている。

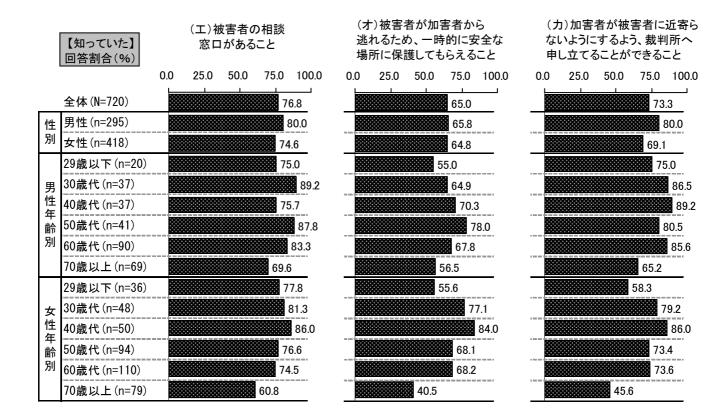


※被害者を発見した者は、配偶者暴力相談支援センター 又は警察に通報するよう努めなければならないこと

認知率 (「知っていた」の割合) を属性別にみると、性別ではすべての項目で男性の割合 が女性を上回っている。

性年齢別では、女性の場合 30~40 歳代では他の年齢層に比べ割合が高い項目が多いが、 女性の 70 歳以上では相対的に割合が低い項目が多い。





又は警察に通報するよう 【知っていた】 努めなければならないこと 回答割合(%) 25.0 50.0 75.0 100.0 0.0 全体(N=720) 50.0 男性(n=295) 54.9 別 女性(n=418) 46.7 29歳以下(n=20) 55.0 30歳代(n=37) 64.9 性 40歳代(n=37) 51.4 在 50歳代(n=41) 61.0 別 60歳代(n=90) 52.2 70歳以上(n=69) 52.2 29歳以下(n=36) 50.0 30歳代(n=48) 47.9 性 40歳代(n=50) 56.0 年 50歳代(n=94) 44.7 齢 別 60歳代(n=110) 48.2 70歳以上(n=79) 39.2

(キ)被害者を発見した者は、 配偶者暴力相談支援センター

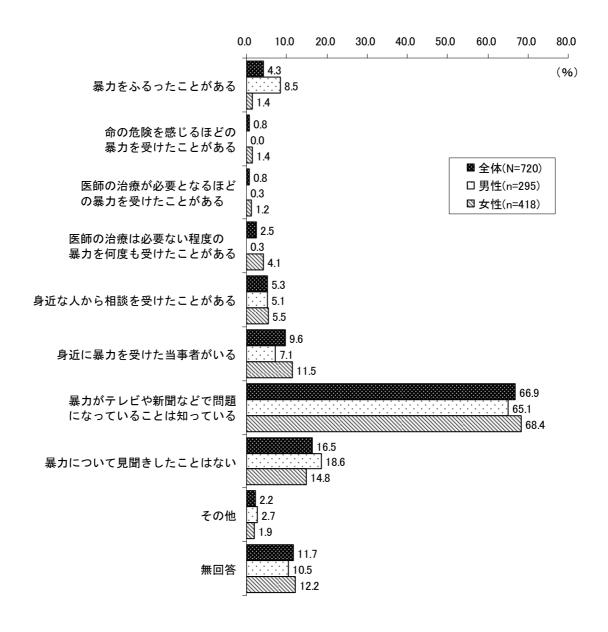
4. DVについて

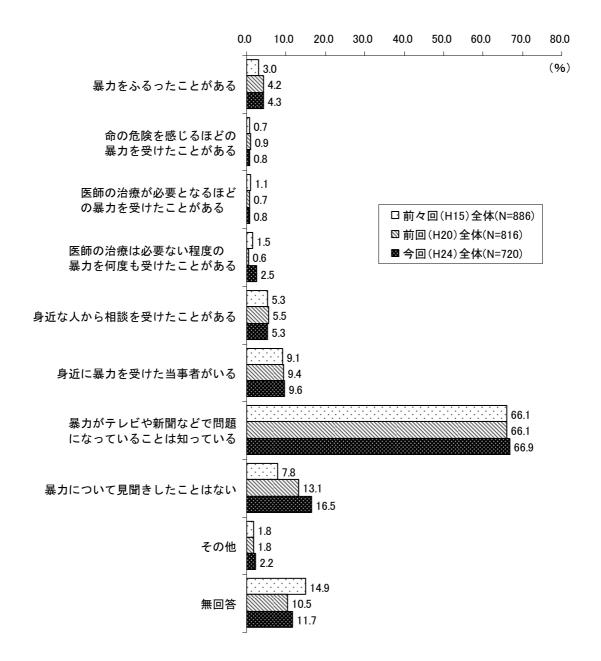
(1) DVの経験

問 23. あなたは、DV・デートDV(夫婦・恋人などの親しい間で身体的・心理的な暴力を受けること)を経験したり、身近で見聞きしたことはありますか。以下の中から、あてはまるものすべてに〇印をつけてください。

DVの経験については、全体の7割近く(66.9%)が「暴力がテレビや新聞などで問題になっていることは知っている」と回答しているが、「暴力をふるったことがある」が4.3%、「命の危険を感じるほどの暴力を受けたことがある」が0.8%みられた。さらに、「医師の治療が必要となるほどの暴力を受けたことがある」が0.8%、「医師の治療は必要ない程度の暴力を何度も受けたことがある」が2.5%となっている。

性別では、男性は女性に比べ「暴力をふるったことがある」割合が高く、女性は「身近に暴力を受けた当事者がいる」「医師の治療は必要ない程度の暴力を何度も受けたことがある」などで男性を上回っている。「命の危険を感じるほどの暴力を受けたことがある」女性は1.4%みられた。

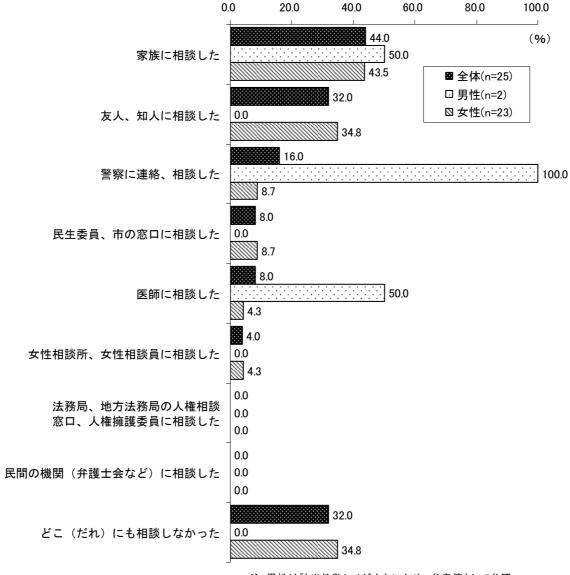




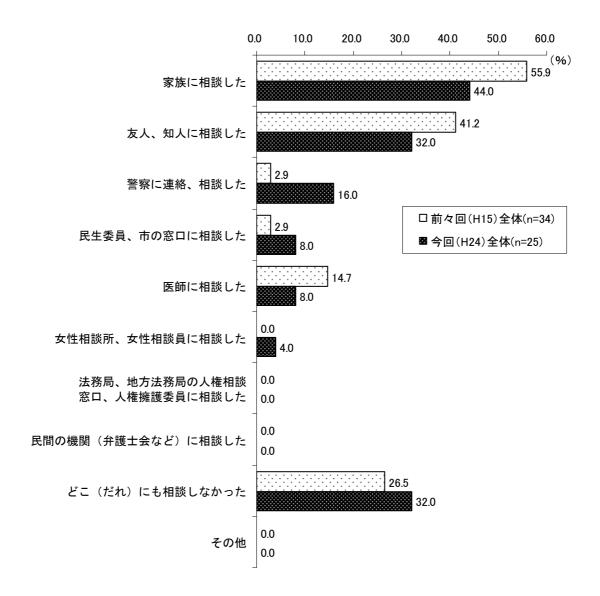
(2) DVの相談経験

問 23-2. あなたは受けた暴力について、誰かに打ち明けたり、相談したことはありますか。次の選択肢の中から、あてはまるものすべてに〇印をつけてください。

暴力を受けたことがある該当者におけるDVの相談経験について、女性の回答をみると、「家族に相談した」が43.5%、「友人、知人に相談した」が34.8%となっており、「どこ(だれ)にも相談しなかった」も34.8%みられた。



注:男性は該当件数(n=)が少ないため、参考値として参照

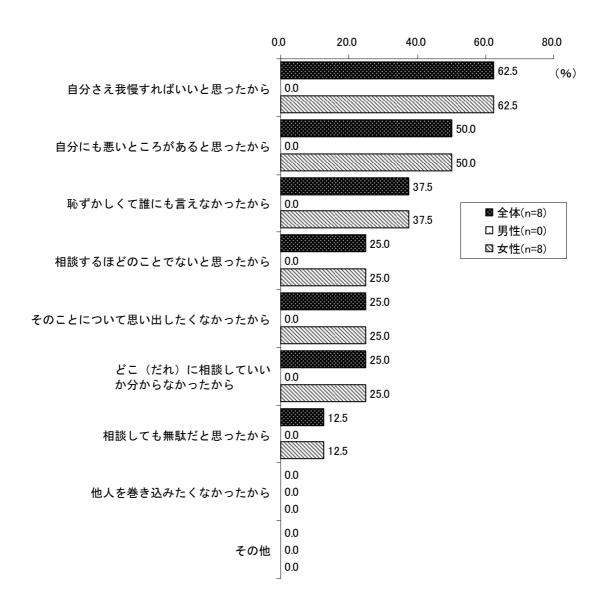


注: 平成 20 年は該当設問への回答者無し

(3)相談しなかった理由

問 23-3. どこ(だれ)にも相談しなかったのは、どのような理由からですか。

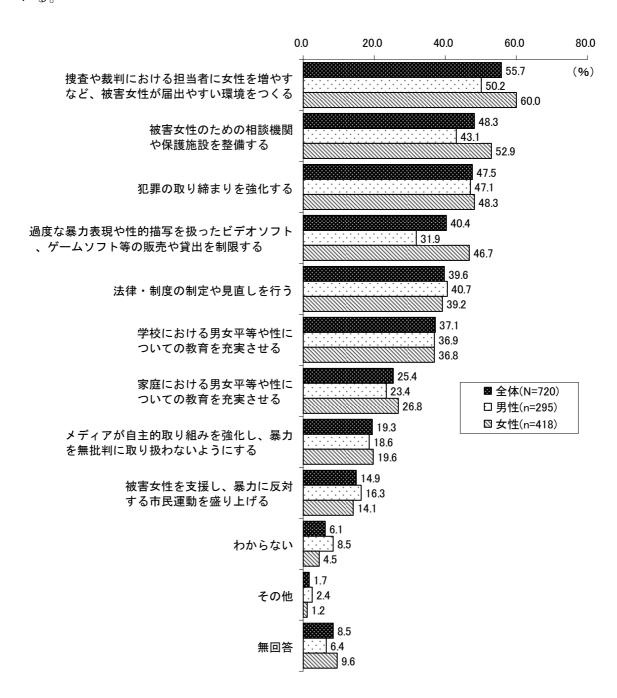
受けた暴力を、どこ(だれ)にも相談しなかった該当者におけるその理由について、女性の回答をみると、「自分さえ我慢すればいいと思ったから」の割合が62.5%と最も高く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」(50.0%)、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」(37.5%)の順となっている。



5. 暴力等をなくすために必要と思うこと

問 24. 性犯罪、買売春、家庭内暴力、セクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)等の女性に対する暴力をなくすためにはどのようにしたらよいと思いますか。次の中から、あてはまるものすべてに〇印をつけてください。

暴力等をなくすために必要と思うことについては、「捜査や裁判における担当者に女性を増やすなど、被害女性が届出やすい環境をつくる」の割合が55.7%と最も高く、次いで「被害女性のための相談機関や保護施設を整備する」(48.3%)、「犯罪の取り締まりを強化する」(47.5%)、「過度な暴力表現や性的描写を扱ったビデオソフト、ゲームソフト等の販売や貸出を制限する」(40.4%)、「法律・制度の制定や見直しを行う」(39.6%)の順となっている。

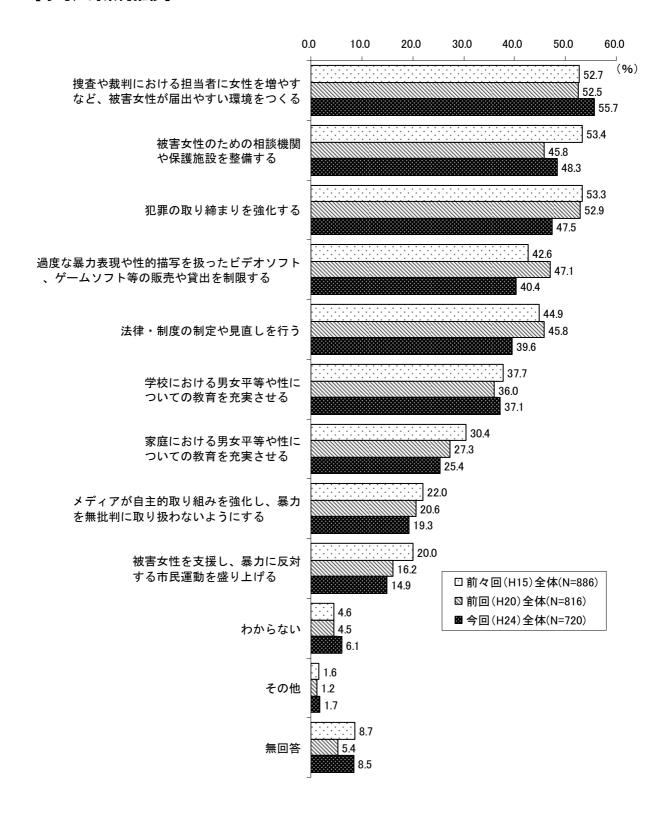


性別では、男性が女性を上回っている項目は目立たないが、女性は「捜査や裁判における担当者に女性を増やすなど、被害女性が届出やすい環境をつくる」「被害女性のための相談機関や保護施設を整備する」や「過度な暴力表現や性的描写を扱ったビデオソフト、ゲームソフト等の販売や貸出を制限する」などで男性を大きく上回っている。

また、男性の 30 歳代や女性 29 歳以下において「犯罪の取り締まりを強化する」、女性の 30 ~40 歳代で「学校における男女平等や性についての教育を充実させる」、女性の 40 歳代で「法律・制度の制定や見直しを行う」などの割合がそれぞれ他の年齢層に比べ高くなっている。

	単位(%)	境をつくる被害女性が届出やすい環者に女性を増やすなど、捜査や裁判における担当	関や保護施設を整備する被害女性のための相談機	する犯罪の取り締まりを強化	売や貸出を制限するト、ゲームソフト等の販写を扱ったビデオソフ過度な暴力表現や性的描	しを行う 法律・制度の制定や見直	させる性についての教育を充実学校における男女平等や	させる性についての教育を充実家庭における男女平等や
	全体(N=720)	55.7	48.3	47.5	40.4	39.6	37.1	25.4
	29歳以下(n=20)	40.0	55.0	50.0	10.0	40.0	35.0	30.0
男性年	30歳代(n=37)	59.5	32.4	70.3	21.6	54.1	32.4	21.6 21.6
住	40歳代(n=37)	48.6	35.1	45.9	37.8	40.5	35.1	
齢	50歳代(n=41)	51.2	51.2	36.6	31.7	51.2	39.0	26.8
別	60歳代(n=90)	55.6	52.2	46.7	30.0	37.8	32.2	16.7
	70歳以上(n=69)	40.6	33.3	42.0	43.5	31.9	44.9	29.0
	29歳以下(n=36)	63.9	63.9	69.4	27.8	36.1	25.0	13.9
女	30歳代(n=48)	64.6	50.0	37.5	41.7	35.4	45.8	41.7
女性年齢	40歳代(n=50)	76.0	62.0	64.0	52.0	66.0	44.0	36.0
	50歳代(n=94)	64.9	56.4	42.6	48.9	40.4	33.0	23.4
別	60歳代(n=110)	60.0	55.5	49.1	51.8	40.9	37.3	26.4
	70歳以上(n=79)	40.5	36.7	40.5	44.3	21.5	36.7	22.8

	単位(%)	する判に取り扱わないように判に取り扱わないようにみを強化し、暴力を無批メディアが自主的取り組	り上げるに反対する市民運動を盛被害女性を支援し、暴力	わからない	その他
	全体(N=720)	19.3	14.9	6.1	1.7
	29歳以下(n=20)	5.0	20.0	10.0	20.0
男	30歳代(n=37)	24.3	18.9	10.8	5.4
性年齢	40歳代(n=37)	24.3	5.4	0.0	2.7
輪	50歳代(n=41)	17.1	19.5	9.8	0.0
別	60歳代(n=90)	17.8	17.8	11.1	0.0
	70歳以上(n=69)	18.8	15.9	7.2	0.0
	29歳以下(n=36)	16.7	13.9	2.8	2.8
女性年齢別	30歳代(n=48)	12.5	8.3	6.3	0.0
	40歳代(n=50)	32.0	18.0	2.0	4.0
	50歳代(n=94)	23.4	16.0	3.2	1.1
	60歳代(n=110)	20.0	14.5	2.7	0.0
	70歳以上(n=79)	11.4	12.7	10.1	1.3

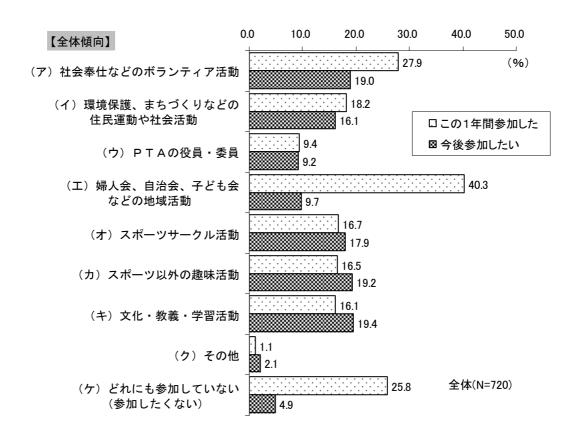


1. 地域活動への参加状況

問 25. あなたは、過去1年間に(ア)~(ケ)の活動に参加されましたか。また今後参加してみたい 活動はありますか。1、2それぞれあてはまるものすべてに〇印をつけてください。

地域活動への参加状況について、参加率 (この1年間参加した割合)をみると、「どれにも参加していない」が25.8%であることから、およそ7割程度が何らかの活動に参加しているとみられる。参加活動としては「(エ)婦人会、自治会、子ども会などの地域活動」が40.3%と突出して最も高く、次いで「(ア)社会奉仕などのボランティア活動」(27.9%)などの順となっている。

今後の参加意向(「今後参加したい」の回答割合)については、「(キ)文化・教義・学習活動」(19.4%)、「(カ)スポーツ以外の趣味活動」(19.2%)、「(ア)社会奉仕などのボランティア活動」(19.0%)などの割合が高くなっている。



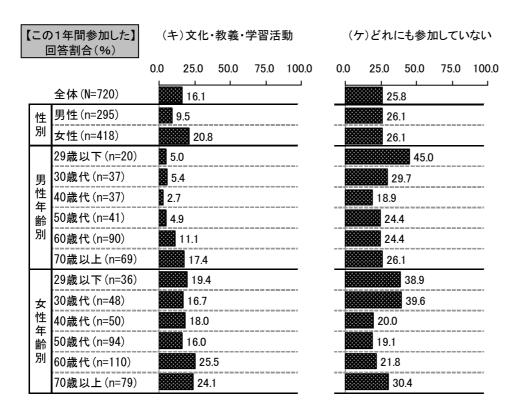
属性別にみると、「(ア) 社会奉仕などのボランティア活動」では男性の参加率が高いが、 今後の参加意向は男女ともに 29 歳以下の若い年齢層で高くなっている。「(イ) 環境保護、 まちづくりなどの住民運動や社会活動」は男性の 29 歳以下で今後の参加意向が高く、「(ウ) PTAの役員・委員」では現在女性の 30~40 歳代の参加率が高いが、同年代の今後の参加 意向は低い。「(エ) 婦人会、自治会、子ども会などの地域活動」は若い層を除く各年齢層 で参加率が高いが、今後の参加意向は各年齢層ともに低い。

【この1年間参加した】 (ア)社会奉仕などの (イ)環境保護、まちづくり (ウ)PTAの役員·委員 回答割合(%) ボランティア活動 などの住民運動や社会活動 0.0 25.0 50.0 75.0 100.0 0.0 25.0 50.0 75.0 100.0 0.0 25.0 50.0 75.0 100.0 全体(N=720) 27.9 9.4 18.2 性 男性 (n=295) 31.9 22.4 8.1 女性(n=418) 15.6 10.3 5.0 29歳以下(n=20) 0.0 5.0 男 30歳代 (n=37) 10.8 18.9 24.3 性 40歳代 (n=37) 40.5 29.7 10.8 年 . 齢 |50歳代(n=41) 19.5 34.1 別 60歳代 (n=90) 35.6 30.0 4.4 4.3 70歳以上(n=69) 33.3 21.7 29歳以下(n=36) 11.1 13.9 5.6 女 30歳代 (n=48) 16.7 25.0 12.5 性 40歳代 (n=50) 24.0 14.0 32.0 年 29.8 50歳代(n=94) 13.8 6.4 別 3.6 60歳代(n=110) 30.0 16.4 3.8 70歳以上(n=79) 20.3 26.6

	今後参加したい】 回答割合(%)	(ア)社会奉仕などの ボランティア活動	(イ)環境保護、まちづくり などの住民運動や社会活動	(ウ)PTAの役員・委員				
		0.0 25.0 50.0 75.0 100.0	0.0 25.0 50.0 75.0 100.0	0.0 25.0 50.0 75.0 100.0				
	全体(N=720)	19.0	16.1	9.2				
性	男性(n=295)	18.6	20.3	11.2				
別	女性(n=418)	19.6	12.9	7.9				
	29歳以下(n=20)	40.0	35.0	25.0				
男	30歳代(n=37)	16.2	18.9	5.4				
性年齢	40歳代(n=37)	13.5	16.2	16.2				
	50歳代(n=41)	19.5	26.8	12.2				
別	60歳代(n=90)	17.8	17.8	12.2				
	70歳以上(n=69)	17.4	18.8	5.8				
	29歳以下(n=36)	30.6	2.8	8.3				
女	30歳代(n=48)	20.8	20.8	14.6				
性	40歳代(n=50)	20.0	12.0	4.0				
性年齢	50歳代(n=94)	25.5	13.8	13.8				
別	60歳代(n=110)	15.5	13.6	5.5				
	70歳以上(n=79)	12.7	11.4	2.5				

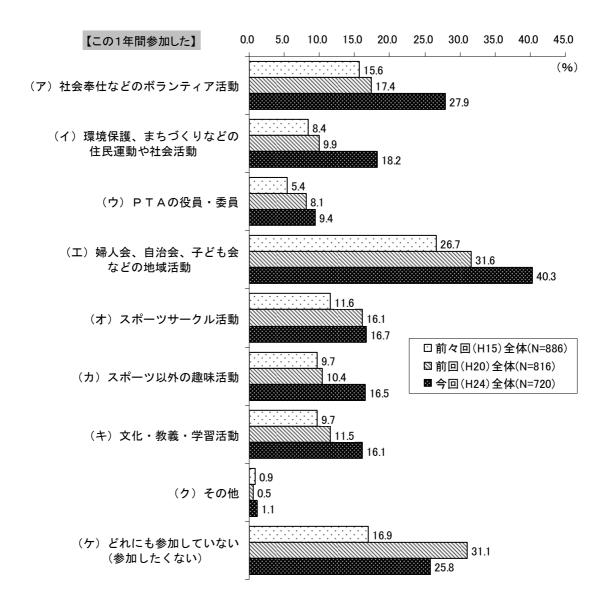
【この1年間参加した】 (カ)スポーツ以外の趣味活動 (工)婦人会、自治会、 (オ)スポーツサークル活動 子ども会などの地域活動 回答割合(%) 0.0 25.0 50.0 75.0 100.0 0.0 25.0 50.0 75.0 100.0 0.0 25.0 50.0 75.0 100.0 16.5 全体(N=720) 40.3 16.7 性 男性 (n=295) 36.9 17.6 13.6 別 女性(n=418) 42.6 16.0 18.4 29歳以下(n=20) 15.0 25.0 15.0 2.7 男 30歳代 (n=37) 35.1 18.9 性 40歳代 (n=37) 35.1 24.3 8.1 年 50歳代(n=41) 41.5 24.4 14.6 別 60歳代 (n=90) 44.4 17.8 15.6 70歳以上(n=69) 18.8 33.3 7.2 29歳以下(n=36) 13.9 16.7 11.1 女 30歳代(n=48) 39.6 18.8 10.4 性 40歳代 (n=50) 38.0 14.0 14.0 年 齢 50歳代(n=94) 45.7 16.0 14.9 別 60歳代(n=110) 50.9 20.0 27.3 70歳以上(n=79) 45.6 8.9 21.5

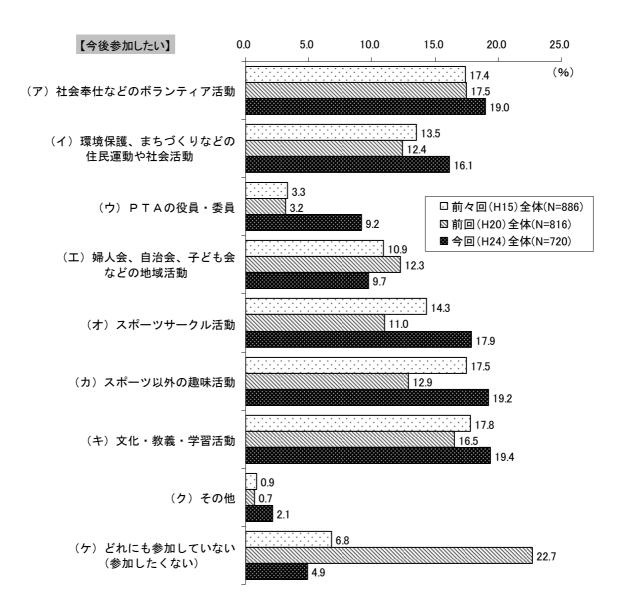
	今後参加したい】 回答割合(%)	(エ)婦人会、自治会、 子ども会などの地域活動 0.0 25.0 50.0 75.0 100.0	(オ)スポーツサークル活動 0.0 25.0 50.0 75.0 100.0	(カ)スポーツ以外の趣味活動 0.0 25.0 50.0 75.0 100.0
	全体(N=720)	9.7	17.9	19.2
性	男性(n=295)	10.2	19.3	19.3
別	女性(n=418)	9.6	17.0	19.4
	29歳以下(n=20)	15.0	25.0	20.0
男	30歳代(n=37)	10.8	18.9	10.8
男性年齢	40歳代(n=37)	10.8	21.6	27.0
	50歳代(n=41)	☑ 7.3	17.1	29.3
別	60歳代(n=90)	10.0	24.4	23.3
	70歳以上(n=69)	10.1	11.6	8.7
	29歳以下(n=36)	11.1	22.2	13.9
女	30歳代(n=48)	20.8	14.6	22.9
生年齢	40歳代(n=50)	2.0	20.0	30.0
	50歳代(n=94)	7.4	24.5	22.3
別	60歳代(n=110)	9.1	15.5	14.5
	70歳以上(n=79)	10.1	7.6	15.2



	今後参加したい】 回答割合(%)	(+	(キ)文化・教義・学習活動					(ケ)参加したいとは思わない					
		0.0	25.0	50.0	75.0	100.0	0.0	25.0	50.0	75.0	100.0		
	全体(N=720)		19.4		<u> </u>			l.9	1				
性	男性 (n=295) 23.1							6.1					
別	女性(n=418)		17.0					3.8					
	29歳以下(n=20)		35.0					5.0					
月男	30歳代(n=37)		16.2					8.1					
性年	40歳代(n=37)		24.3					2.7					
齢	50歳代(n=41)		36.6					2.4					
別	60歳代(n=90)		24.4					6.7					
	70歳以上(n=69)		11.6					8.7					
	29歳以下(n=36)		13.9					11.1					
女	30歳代(n=48)		18.8					.2					
性年	40歳代(n=50)		20.0					0.0					
齢	50歳代(n=94)		23.4					2.1					
別	60歳代(n=110)		13.6					5.5					
	70歳以上(n=79)		12.7				2	.5					

注:「(ク)その他」の図表は省略している。

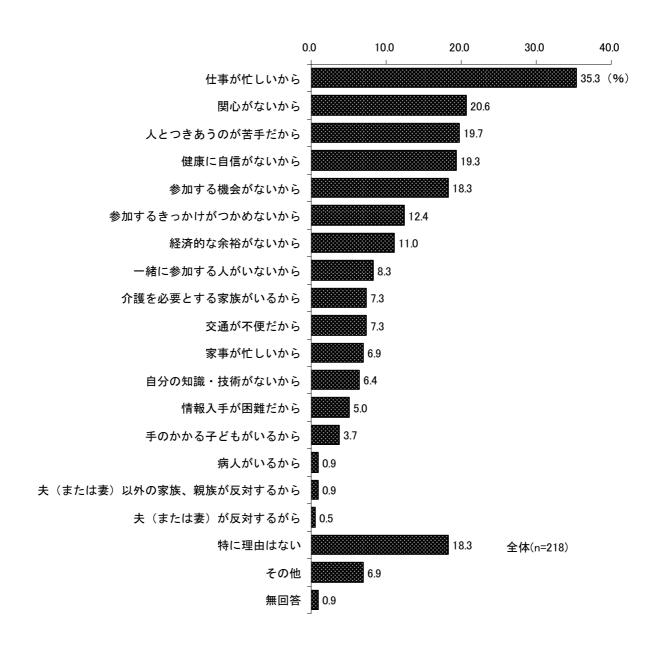




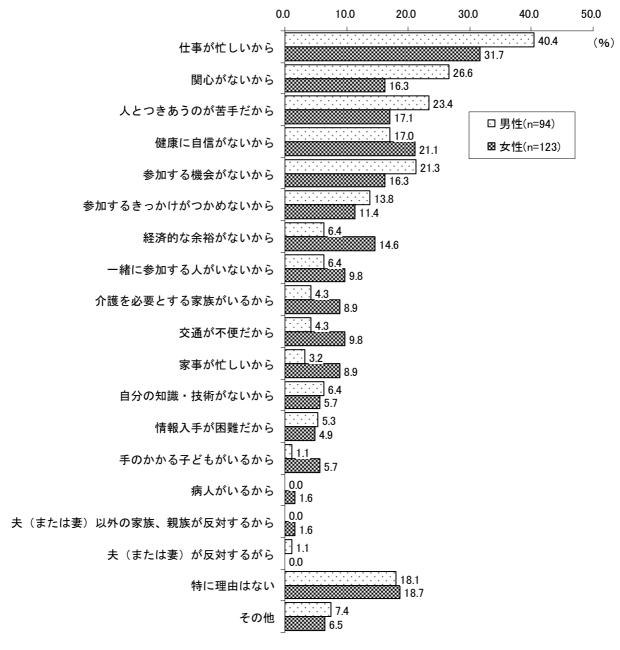
2. 地域活動に参加しない理由

問 25-2. あなたが、地域活動に参加されない主な理由を次の中から、3つまで選んで〇印をつけてください。

地域活動に参加しない理由については、「仕事が忙しいから」の割合が 35.3%と最も高く、次いで「関心がないから」(20.6%)、「人とつきあうのが苦手だから」(19.7%)、「健康に自信がないから」(19.3%)、「参加する機会がないから」(18.3%)の順となっており、「特に理由はない」が 18.3%みられた。



性別でみると、男性は女性に比べ「仕事が忙しいから」「関心がないから」「人とつきあ うのが苦手だから」などの割合が高く、女性は「経済的な余裕がないから」「交通が不便だ から」「家事が忙しいから」などで男性を上回っている。



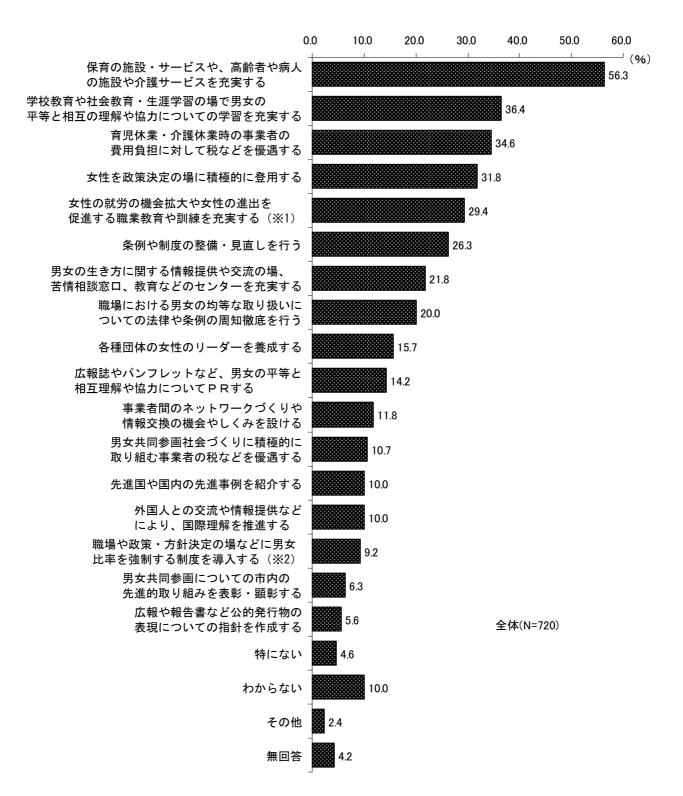
注:図中「無回答」は省略している

1. さぬき市が今後力を入れるべきこと

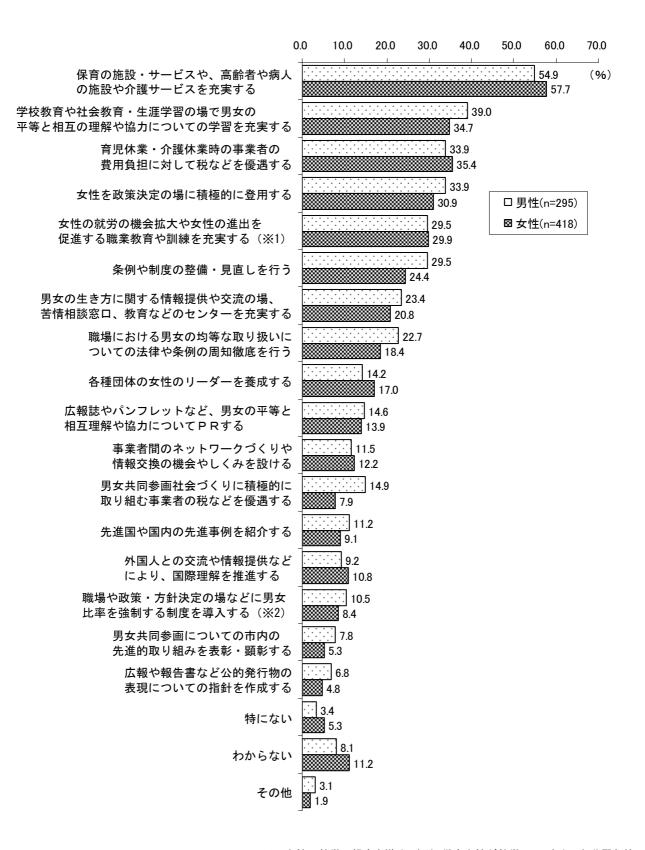
問 26. 男女共同参画社会を形成していくために、さぬき市は今後どのようなことに力を入れていく べきだと思いますか。次の中から、重要だと思うことをいくつでも選んで〇印をつけてください。

さぬき市が今後力を入れるべきことについては、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」の割合が 56.3%と半数を超え最も高く、次いで「学校教育や社会教育・生涯学習の場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」(36.4%)、「育児休業・介護休業時の事業者の費用負担に対して税などを優遇する」(34.6%)が続いている。以下「女性を政策決定の場に積極的に登用する」(31.8%)、「女性の就労の機会を増やしたり、従来女性が就労していなかった分野などへの女性の進出を促進するための職業教育や職業訓練を充実する」(29.4%)、「条例や制度の整備・見直しを行う」(26.3%)の順となっている。

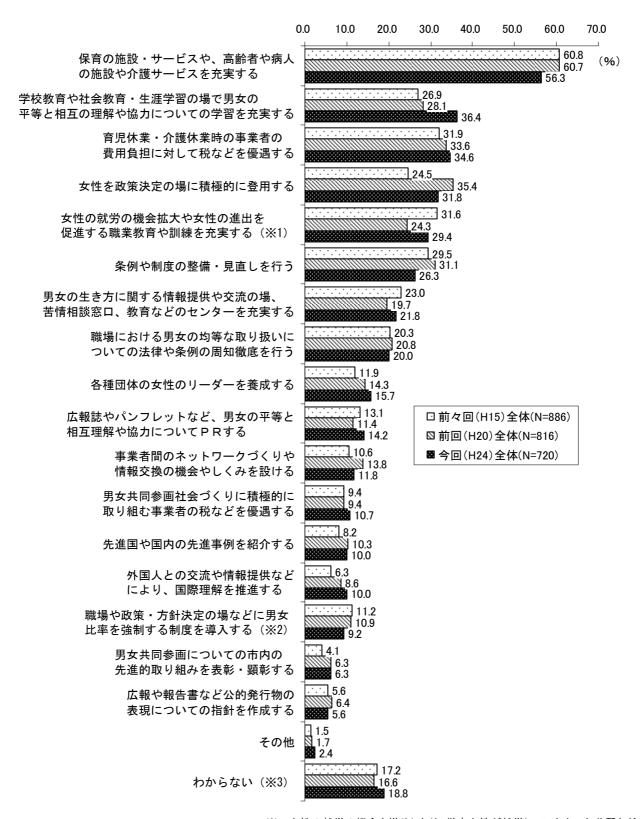
性別でみると、男性は女性に比べ「職場における男女の均等な取り扱いについての法律や条例の周知徹底を行う」「男女共同参画社会づくりに積極的に取り組む事業者の税などを優遇する」などで割合が高くなっている。女性は「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」「各種団体の女性のリーダーを養成する」などで男性をやや上回っている。



- ※1 女性の就労の機会を増やしたり、従来女性が就労していなかった分野など への女性の進出を促進するための職業教育や職業訓練を充実する
- ※2 職場や政策·方針決定の場などに参画すべき女性または男性の数や比率を 定めて強制する制度を導入する



- ※1 女性の就労の機会を増やしたり、従来女性が就労していなかった分野など への女性の進出を促進するための職業教育や職業訓練を充実する
- ※2 職場や政策・方針決定の場などに参画すべき女性または男性の数や比率を 定めて強制する制度を導入する
- 注:図中「無回答」は省略している



- ※1 女性の就労の機会を増やしたり、従来女性が就労していなかった分野など への女性の進出を促進するための職業教育や職業訓練を充実する
- ※2 職場や政策・方針決定の場などに参画すべき女性または男性の数や比率を 定めて強制する制度を導入する
- ※3 「無回答」を含む

【7】男女共同参画について

1. 自由記述回答集約結果

問27.「男女共同参画社会」についてご意見、ご要望等がありましたら、以下にお書きください。

「男女共同参画社会」に対する意見、要望等を自由記述方式(フリーアンサー)で尋ねたところ、以下のような意見がみられた。性・年齢別に区分してとりまとめている。

男性 18~19 歳

・記入無し

女性 18~19 歳

・男女平等については、大人よりも子どもへの教育に力を入れた方がよいと思う。また、さぬき市は小・中・高・大学生など、子どもの風紀の乱れがある学校がある。それらを厳しく取締り、正しい教育を施すことが男女平等につながっていくと思う。アンケートの回答で気になったのだが、「暴力・性的描写のあるビデオ・ゲーム等の販売を規制する」というのがあったが、これを規制することに意味はない。このような「ビデオ・ゲームをすること」と「犯罪を起こす」ことは何の関連性もなく助長されているわけでもない。むしろ、ビデオ・ゲームで満足し、犯罪等を起こさない人の方がはるかに多い。テレビのCMや番組の内容を改める方がよっぽど有効である。(女性 18~19 歳)

男性 20 歳代

・「女性を一定の割合で〜」とか「比率を〜」というのはよくない。重要なのは機会の平等であって、結果ではない。同じ条件で公募し、評価し、欲しい人材を選ぶから社会が発展する。男女関係なく平等に選ばれる社会が平等な社会ではないのか。(男性 20 歳代)

女性 20 歳代

・必ずしも女性管理職の登用を推進すべきとは思わないが、能力のある人間が女性である から男性であるからという理由で排除されるのであれば、制度等の見直しは必要である と思う。ただし、性別によって身体能力に差があるのは当たり前のことであるし、平等 であることばかりに注意を払うのは好ましく思わない。平等に与えられるべきなのは機 会であって、それをどう判断するかは個々人に委ねられるのが望ましいと思う。(女性 20歳代)

男性 30 歳代

- ・新しい時代を見い出してほしい。とにかくすべての面で他市より遅れている。(男性 30 歳代)
- ・女性の社会進出で大切なことは、職場の環境づくりである。子どもが熱を出した時に見てくれる病児保育や17時以降も見てくれる学童保育が、さぬき市にはあまりにも無さ過ぎる。そのために仕事が制限されたり、働けなかったりする。もっと行政がバックアップするべきである。(男性30歳代)
- ・男性も育児に参加できるように育児休暇の取得を法律で義務付けたり、女性も育児が落ち着いたら再就職できるように法律で支援していければよいと思う。家事も男女区別なくお互いに協力するように教育すれば、考え方も変わってくると思う。人が結婚して子どもが生まれなければ、国自体が縮小・衰退していくのだから、行政も積極的に男女の健全な出会いの場を作り提供していく必要があると思う。そうすれば、人口も増え市町村の過疎化の防止にもつながる。もっと結婚や子育てを支援する政策が必要だと思う。(男性30歳代)

女性 30 歳代

- ・「男女共同参画意識」は子どもの頃の環境が大きくかかわります。大学時代、ある省の取り組みによりゼミでアンケート調査をしましたが、父親が家事に参加している男子は当然のことと思っています。しかし、そうでない家庭は、「女」が家事をすることが当たり前と思っています。年齢ではなく環境が大きくかかわります。子どもの頃からの意識は変わりにくいのが事実です。こういったことを含め、いろいろと考えて頂ければと思います。(女性30歳代)
- ・女性で頑張っている方の講演会を開いてほしい。何が問題なのかをディスカッションする機会があるとよい。(女性30歳代)
- ・現在役職についている世代(特に男性)が男尊女卑の考えが強い気がする。平日は夫の帰りが遅く、家事や子育ての協力を期待できない。職場でも「早く帰宅する=やる気がない」と思う上司がいると、なかなか早く帰宅できない。そうなれば自然に妻がすべてを担うことになる。そのような家庭で育った子どもたちは、それが当たり前になっているので、自分達が配偶者と暮らし始める時にも、妻が家事を担う可能性が高くなる気がする。(女性30歳代)
- ・こんなアンケートをして何になるのかわかりません。経費の無駄。(女性30歳代)
- ・身体のつくりが違うので男女の差は仕方がない。しかし働くことに関しては、女性が積極的になれるよう、家事・育児等が「女性のもの」にならないような環境づくりを進められたらと思う。(女性30歳代)
- ・男女共同参画社会の意味がよくわかりません。どのような活動をされているのかも知りません。(女性 30 歳代)
- ・小さい時から学びの場をつくり、人としてのモラルを身につける。「いじめ」問題にも取り組んでほしい。(女性30歳代)
- ・別件ですが、子どもの3歳児健診の案内が誕生日後、半年もたってくるのは遅すぎます。 何とかなりませんか? (女性30歳代)
- ・保育料が高過ぎるので、安くして女性の方が働けるようにしてほしい。保育所に行かせても、何のためにパートに行っているのかわからない。(女性30歳代)

男性 40 歳代

- ・意識の実態調査とは別に、さぬき市政として「男女共同参画社会」のあるべき姿をどのように考えているかを示してほしいです。「あるべき姿」と「実態」とのギャップを埋めることが、今後市政がやるべきことと思います。(男性 40 歳代)
- ・以前、男女共同参画の会に参加したことがあるが、会の中で女性の発言が全く的外れで、 何時間も話したわりには全然進まなかった。やはり家庭内だけで生活されて社会生活を 経験されていない女性は、議論ができていないようだった。どうせ開催するなら、男女 の割合や年代にも考慮して集まってもらうべきだと思う。(男性 40 歳代)
- ・求職では、逆に男性の方が不利な場合があるので改めてほしい。(男性40歳代)
- ・国や県、市町村の三つが同様に男女共同参画に取り組んでいるが、三重行政になっているために無駄が多い。例えば国が本政策を実施して県・市町村は手を引き、事業を集約することで税金をきちんと使ってほしい。アンケート内でも家庭内の項目が目につくが、個人の家庭について行政が口をはさむ必要はない。男女平等や女性が働きやすい環境を整えるための法整備、環境整備が行政の役割である。個人の家庭の家事を誰がするかは、その家で話し合って決めればよいことである。以上2点を踏まえて市町村の役割はないことから、無駄な税金を使わないよう、本事業を廃止してください。男女共同参画推進委員会のメンバー構成は、男女同じ人数ですか。平均年齢は、60歳以上に偏っていませんか。このアンケートを見ていると、60歳以上の女性の視点からの質問のような気がして不愉快です。(男性40歳代)
- ・結婚問題に関して言えば、女性の方が「する、しない」という権限を持っているような 風潮が不満です。(男性 40 歳代)
- ・女性の社会参加や地位向上には賛成です。しかし、いつまでも男女平等を訴えるのはどうかと思います。(男性 40 歳代)
- ・女性は、資格や技術を自ら身につける必要がある。税金で援助してできるものではない と思う。チャンスを与えるのはよいが、最後は能力の有る無し。(男性 40 歳代)
- ・田嶋陽子さんを講師として招き、講演・パネルディスカッションをしてほしい。そして 男女共同参画社会の啓発をしていただけたらと思う。また、その講演会をさぬき市のケ ーブルテレビで何回も放映するとよいと思う。(男性 40 歳代)

女性 40 歳代

- ・「男女共同参画社会」については、学校や職場で勉強をする機会があった。しかし、改善されているという実感することがない。労働時間の短縮や育児休暇の延長など、制度については充実してきた。しかし、職場の環境によって様々である。行政の指導力を望みます。(女性 40 歳代)
- ・「男女共同参画社会=男女平等=性差がない」ということではないと思う。男女差を理解したうえで、お互いに嫌な思いをさせないようにすることではないだろうか。女性に意見を言われたら、過剰に反応する男性。文句を言いやすい人に大きな態度をとる人間。すべて、相手の立場になって考えれば解決することである。(女性 40 歳代)
- ・「問3」については、さぬき市の現状がわからないので回答できない。2年前に転居してきたが、アパート暮らしで子どももいないため、地域の人との交流もなく情報を得にくい。(女性40歳代)

- ・一部の人だけでなく、全員に行き渡るような取組みをしてほしい。(女性40歳代)
- ・いろいろな意見を聞いて前向きに考えていくことは、大切なことだと思います。(女性 40歳代)
- ・男と女は違っているから社会のバランスが取れてちょうどいいんです。田舎ほどしきたりや習慣が根強く、管理職につく年代の人ほどその習慣が消せないようです。さぬき市の条例、政策決定の場への参加等、見直しは必ず必要です。社会福祉協議会の職員も、さぬき市職員同様指導が必要かと思います。男性が育っていない!事務局長にはしっかりしてほしいです。(女性 40 歳代)
- ・公的な場所が、平日夜間や土日に開いていればそれだけでずいぶん違うと思う。働いている人が行けない時間しか開いていないのは無駄。(女性40歳代)
- ・男女共に自立できる社会になるよう、行政や人に頼って生きていくのではなく、自分の 生活は自分で責任を持つ。そういう大人になるように子どもを育てていくべきと思う。 (女性 40 歳代)
- ・問3の選択肢に「わからない」の項目があってもよいのではないでしょうか。(女性 40 歳代)
- ・保育サービスや介護サービスを充実してもらわないと男女共同参画社会にはならないと 思います。(女性 40 歳代)

男性 50 歳代

- ・欧米社会に比べて、日本人の男女共同参画への意識は極めて低い。文化的な差かもしれないが、女性の視点から物事を考えると改善されることも多いと思う。(男性 50 歳代)
- ・さぬき市を一つとしてとらえるのではなく、男女共同参画社会の実現を考える際には、 その地域の実態に応じて考えることが大切なのではないだろうか。例えば、志度と大川 では違うであろうし、海辺と山間部でも異なると思う。(男性 50 歳代)
- ・市職員が各自治会で座談会などを開催し、男女共同参画だけでなく、若者や高齢者の生の声を聞いてください。(男性 50 歳代)
- ・女性のことばかりだが、男性に対する嫌がらせも多々あると思っている。(男性50歳代)
- ・男女両方の考え方を変えていくことによって、男女共同参画社会が実現すると思う。これからの時代は、今持っている考え方を少しずつ変えていくことが、社会全体の男女に問われている問題だと思う。(男性 50 歳代)
- ・奉仕活動・ボランティア等の個人活動は、よい意味で男女共同参画社会・男女平等に差別があると思います。(男性 50 歳代)

女性 50 歳代

- ・家庭生活において、男性は働くだけと言う習慣が残っているが、それで十分な生活ができれば女性は外で働かなくても家のことを責任を持ってできる。しかし現状では、夫婦共稼ぎは珍しくなく、むしろ当たり前のようになっている。それでも生活が厳しいとなれば、お互いに不満が残り、平等な社会は出来ないと思う。社会の安定が男女共同参画社会の一番の秘訣だと思う。(女性50歳代)
- ・質問の意義がわからないものがあり答えにくい。回答に関しても同じ。アンケートの数が多過ぎて苦痛。(女性 50 歳代)

- ・女性が職業に就くことにあたって、自分磨きのためにしている人と、生活のために仕事を持っている人とは違うと思います。本当は家で子育てをしたいと思っても、生活のために時間に追われて自分自身にイライラしたり子どもや家族に辛くあたり、相手の心を傷つけることも多々あるのではないでしょうか。家族みんなが、相手のことを思って自分達のできることは協力し合って生活できればよいと思います。男性と女性は根本的に同じとは思えないので、お互いできないことを補っていかないといけないと思います。男性的な女性や女性的な男性も尊重してあげたいと思います。(女性50歳代)
- ・女性に対する、男性の偏見や差別意識が根強い。女性が上に立つと、「出る杭は打たれる」 感じがする。女性も女だからと甘えているように感じる。男女を問わず意識改革が必要 である。(女性 50 歳代)
- ・男女平等と言うけれど、男女それぞれに合った役割があります。それぞれの比重において、平等にこなしていければよいと思います。(女性 50 歳代)
- ・夫婦とも働いている家庭が多くなり、一家だんらんの温かみのある家庭が少なくなった。 夫婦間の会話の時間が少なくなったように思う。(女性 50 歳代)
- ・保育・介護についてもう少し考えてほしい。収入が少ない家庭では、働きたくても出費が多くなるため保育や介護の制度・施設を利用できず、家庭で子育てして働けない人が多い。働けないのでお金がないから頼めない、その繰り返しのように思う。(女性 50 歳代)
- ・昔と比べると、意識は変わってきていると思う。(女性50歳代)

男性 60 歳代

- ・今の社会は、様々な分野において女性が活躍している。女性が働き、夫が家事をしている家庭もあるので、必ずしも男が働かなくてもよいという観念を持つようにしてほしい。 (男性 60 歳代)
- ・広報が問題だと思う。広報を読まないしCATVを見ない人も、買物には行くし通販も利用する。市内のスーパーなどと話し合って、今がわかるインターネットテレビを入れる。地元の通販会社にも、市内の荷物には広報やお知らせをいれてもらえるとよいと思う。(男性 60 歳代)
- ・これからの高齢化社会を考えると、女性の社会進出は必要なことと思いますが、元々日本の女性は家庭の中にいることに安堵感を感じる人が多かったのではないでしょうか。 その習慣・風習を打破していくには、女性が家庭から出やすい環境を社会がつくっていく必要があると思います。(男性 60 歳代)
- ・状況把握ができておらず、まだ男女共同参画社会という意識がなかった。このアンケートから考える機会を得ることができた。(男性 60 歳代)
- ・男女共同参画という割には、男女同数になっていない。基本的に同数となる努力が必要である。(男性 60 歳代)
- ・男女雇用均等法により定められていること。遵守していけばよいこと。女性を優遇していくのではなく、実力のある女性を積極的に登用するべきである。(男性 60 歳代)

- ・男女平等や雇用機会均等法などが叫ばれるようになって、社会全体がおかしな方向に向いてしまっているような気がします。女性が社会進出を積極的に進めることで、家庭の不和・暴力・子どもの孤立等、深い問題が起きています。何と言っても少子化に拍車をかけている。結婚しない人が増え、これが少子化にも関係して、将来に不安を覚えます。「子どもは国の宝」このことを原点に、考え直してほしいです。人権は大切なことですが、あまり煽りたてるのはいかがなものでしょうか。(男性 60 歳代)
- ・男女を問わず、散歩兼ウオーキング、ゴミ清掃や草取り等、簡単な仕事を短時間、重荷にならない程度にこなせれば健康で過ごせると思う。(男性 60 歳代)
- ・老後生活安定のため、年金や医療費もことをもっと考えてほしい。(男性60歳代)

女性 60 歳代

- ・「男女共同参画社会」の趣旨は、表紙のページにあったのでわかりますが、これから市民 に啓発する中で、具体性が求められると思います。「男女共同参画社会とは・・・」とい う言葉はよく聞きますが、身近な所ではどういう問題があり、どう考えていったらよい のか、幅広い年齢層(特に老人家庭にも)によくわかるようにお願いしたい。(女性 60 歳代)
- ・アンケート結果は、いつ頃公開されるのでしょうか。(女性60歳代)
- ・いろいろと勉強していきたいと思います。(女性60歳代)
- ・自治会から男女一名ずつ出席していろいろと意見交換をしたら、いろいろなことに気づいたり発見があるのではと思います。(女性 60 歳代)
- ・男女共同参画社会は大いに賛同しますが、「女性は女性らしさ」「男性は男性らしさ」を 保ってほしいです。ただ、男女平等といえども限界があるので、性犯罪等には大いに力 を入れていただきたいです。(女性 60 歳代)
- ・男女には身体的に違いがあり、すべてにおいて平等と考えるのには無理がある。それぞれの能力・持ち味を活かし、男女が協力し合い、補い合い、認め合うことが大切だと思う。さぬき市で感じるのは、まだ男社会が残っているような気がすることである。(女性60歳代)
- ・津田町は何に対しても積極性がなく、協力もしない気質だと思います。(女性60歳代)
- ・隣の人が何をしているのか、わからない世の中になりました。先日、主人が亡くなりました。一人で住んでいると、病気になった時などは大変不安になります。男女共同参画社会というプランが出来たのですから、横と横のつながりを広く進めていただきたいです。(女性 60 歳代)
- ・一人暮らしの高齢者です。今後もよろしくお願いします。(女性60歳代)

男性 70 歳以上

- ・市議会議員に女性が立候補できる環境をつくる。また、各会合においても女性の人数を 多くする。(男性 70 歳以上)
- ・男女共同参画社会の実現のためには、まず第一に住民の意識改革が必要である。現在進行している結婚回避傾向の中では十分な成果は得られそうにない。結婚への誘導施策も必要である。(男性 70 歳以上)

- ・男性には理解できない、女性の言動や甘えが多々見られます。男女平等を実践するには、 子どもの頃からの教育が重要だと思います。(男性 70 歳以上)
- ・人間教育が大事。(男性 70 歳以上)
- ・自ら考え行動し、知識や経済力をつけ自立する。(男性70歳以上)

女性 70 歳以上

- ・「男女共同参画社会」等と声高に叫ばなくても、各人がそれぞれの家庭においてよく話し合いながら、できることをすればよいと思う。人間すべて平等の精神ならば、何の問題もないと思う。能力のある人がすればよい。女性の社会参加と言っても、子どもが小さい間はお母さんが子育てするのが一番。保育の数を増やして仕事に出るのは反対です。しつけも自身でするべきもの。大切な幼児期に人さまに保育してもらうのはよくないと思います。自分の大切な子どもは、しっかり自身で育てなさいと言いたいです。(女性70歳以上)
- ・70 歳以上には、あまりアンケートのお役に立てないと思いました。(女性 70 歳以上)
- ・今の小学生を見ると、リーダー的な活動をしているのは女子の方で、男子はそれに従うように感じます。この子達が大きくなった時にどうなっているかが知りたいです。男女共同参画社会は第一に、各個人の認識にかかっているように思います。いくら環境を作ろうとしても、その人のやる気がなければ難しいことでしょう。まずは、学生時代を含め社会人になっても、各自が社会の一員であることを自覚させるような話を機会あるごとに実施したいものです。地区の自治会・老人会・子ども会・いきいきネットの集会等を利用して、周知をはかることを積極的に実施したいものです。余談ですが、このアンケートで設問の意図が理解できず、回答に苦慮するものがありました。(女性70歳以上)
- ・このようなアンケートは、高齢者には答えが出ません。必要ない問題がたくさんありま す。年齢に上限を設けてアンケートする方がよいと思う。(女性 70 歳以上)
- ・さぬき市の場合、女性リーダーの質の低さ。もう少し、民意をくんでほしい。(女性 70 歳以上)
- ・市役所に「男女共同参画課」を設置すれば役所職員-学校-職場-家庭-地域等へ、その意思が浸透していくように思います。(女性 70 歳以上)
- ・女性が外で働いて家庭崩壊になるようでは困ります。家族の理解・協力が必要です。心 休まる家庭があってこそ、よい社会につながると思います。(女性 70 歳以上)
- ・男女共同参画の問題だけでなく、目に見えない障害を持つ人もいるが相談にも行けない。 市政が市職員のためにあるように見える時がある。雇用はあらゆる面から見て平等であ ることを期待する。(女性70歳以上)
- ・明治生まれのお姑さんに仕えてきましたが、よきことを教えて聞かせてくれました。当時は辛かったですが、今思えば聞いてよかったことが多々あります。今の世の中、その反動が見られます。(女性70歳以上)
- ・よい企画だと思いますが、充実するには時間がかかると思います。女性を起用することは結構ですが、本来の女性のつとめができにくくなるばかりです。女性も昔よりは積極的になっているので、お互いが尊敬し合っていくことでよい方向に進んでいくと思います。女性にはやはり家庭づくりが一番大切だと思います。一部の優秀な女性には、男性と対等な立場で意見交換することを期待します。(女性70歳以上)